

資料集

コロナ流行下で
起きていたこと、起きていること
(2023年9月9日まとめ)

メンタルケア協議会
羽藤 邦利

(資料の項目)

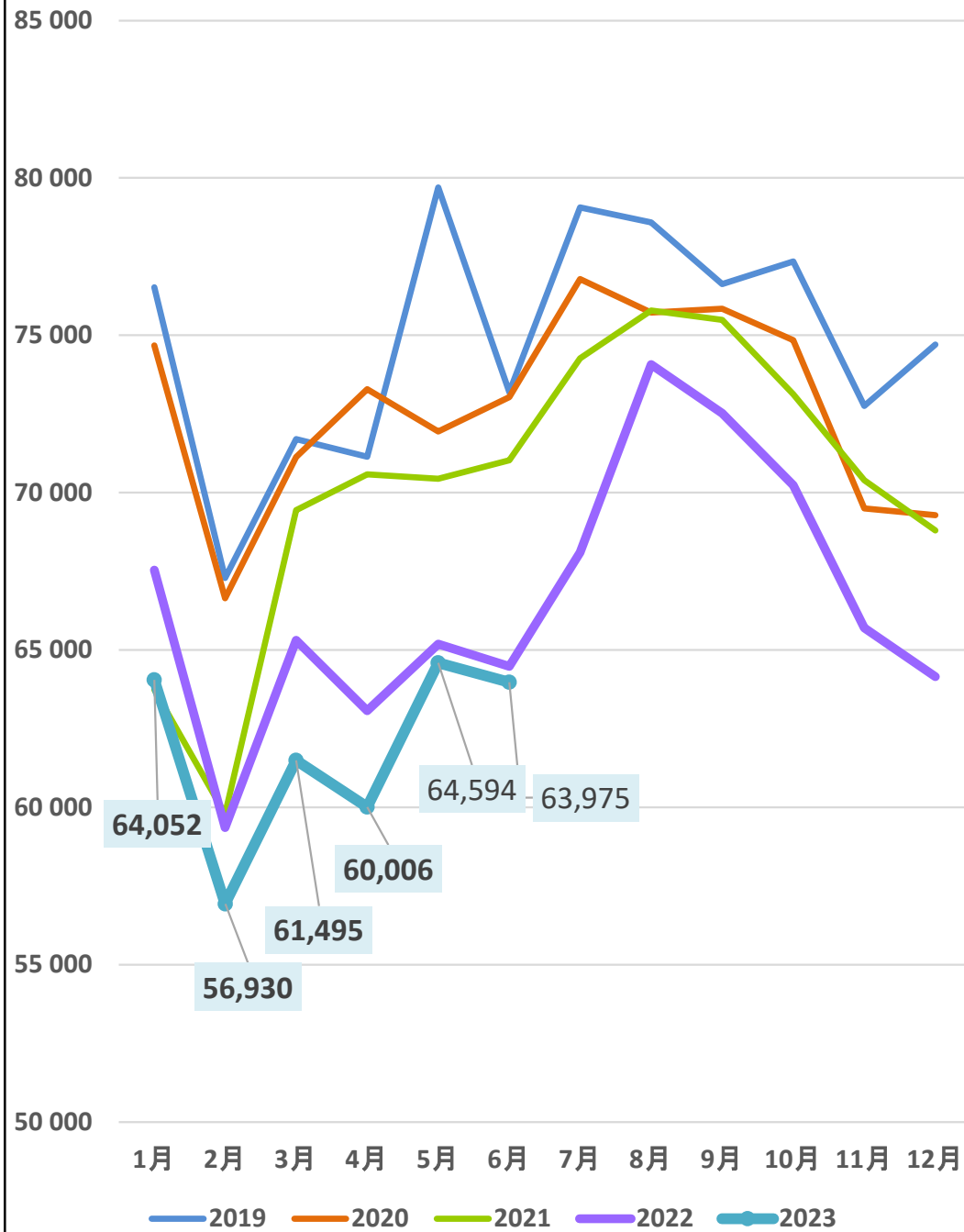
- 人口動態統計（速報）より
- 人口動態統計（概数）より
- 超過死亡数とコロナ死亡数
- コロナ流行下、子どもが重大な影響を被っていた
- 家庭で起きていたこと
- 精神科医療で起きていたこと

人口動態統計（速報）より

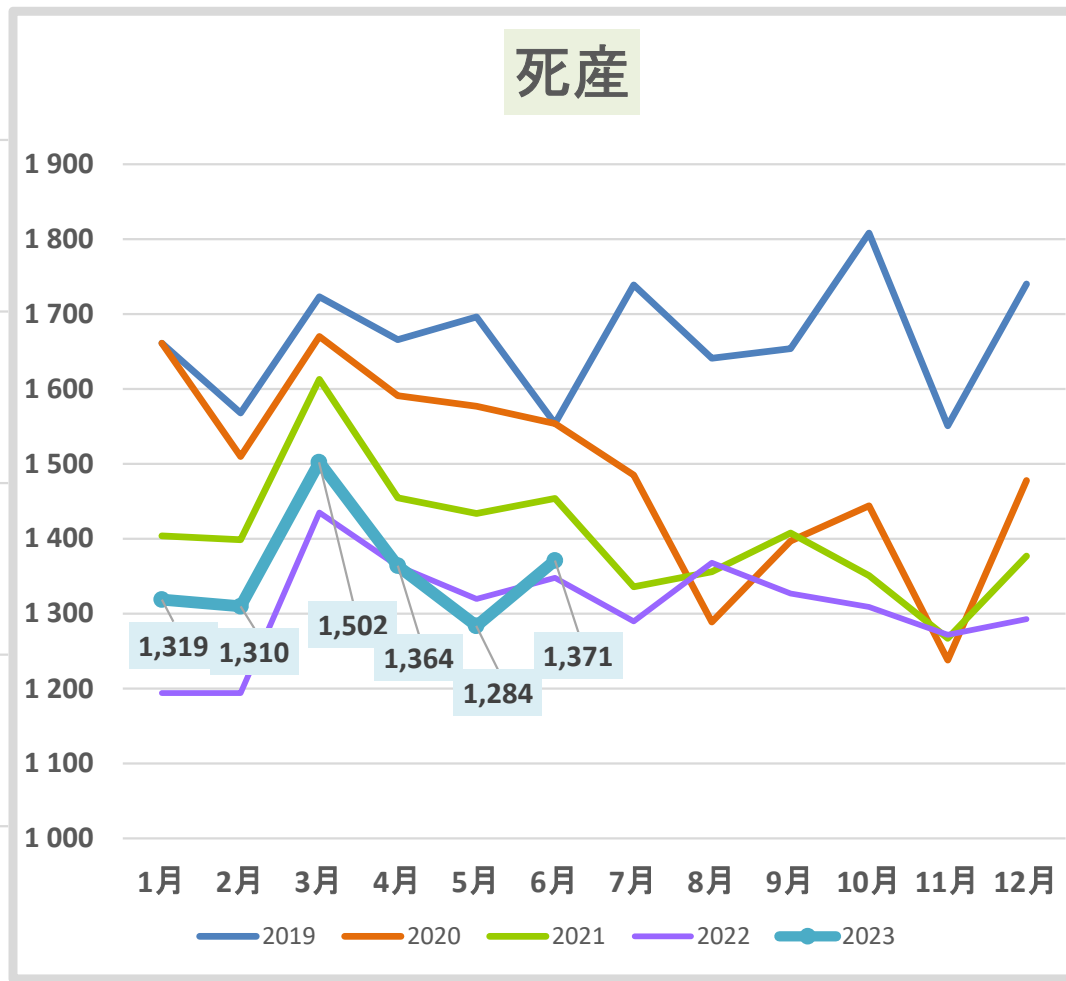
（2019年 2020年 2021年 2022年 2023年6月）

出生数、死亡数、婚姻数、離婚数の動向

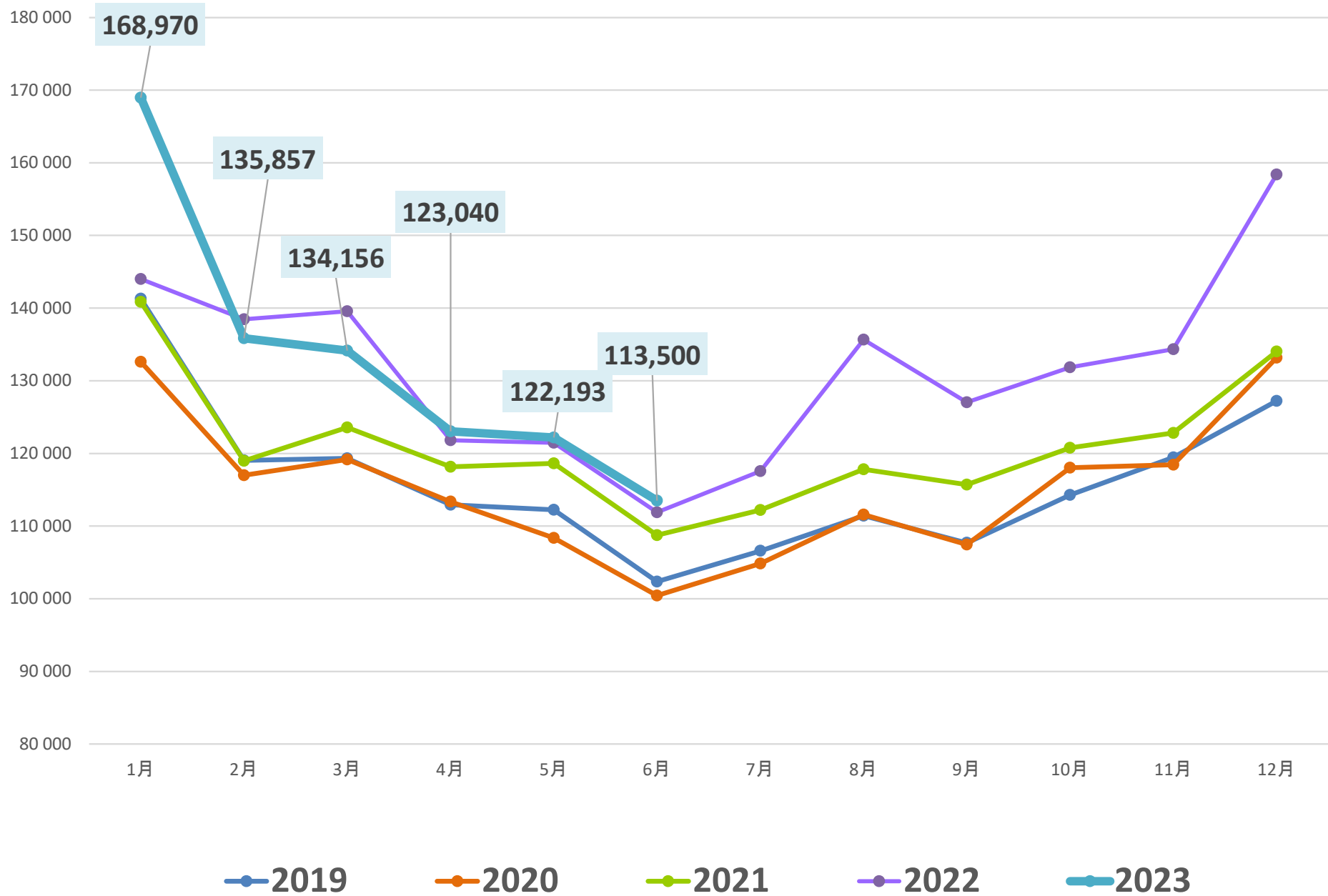
出生数



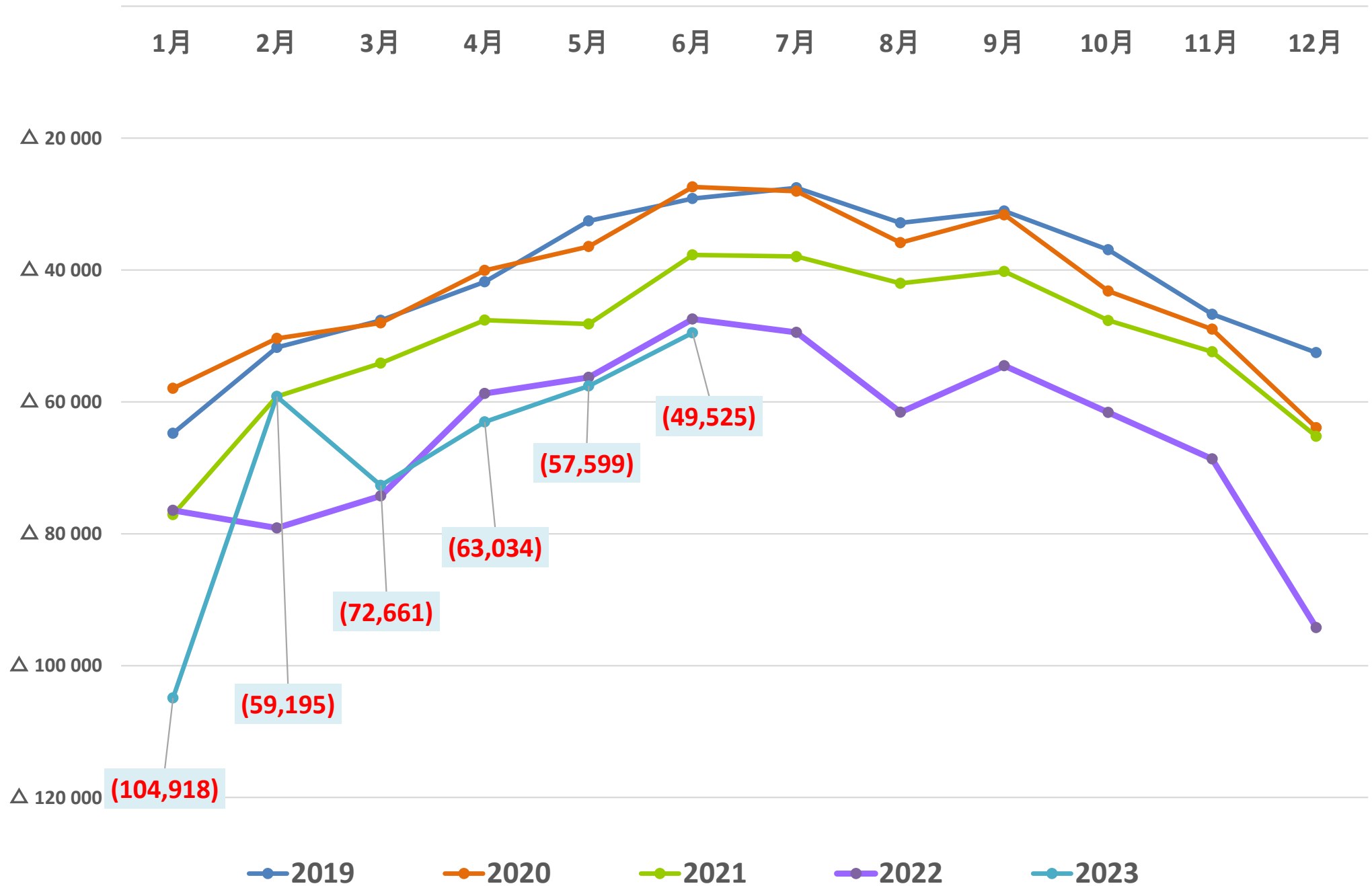
死産



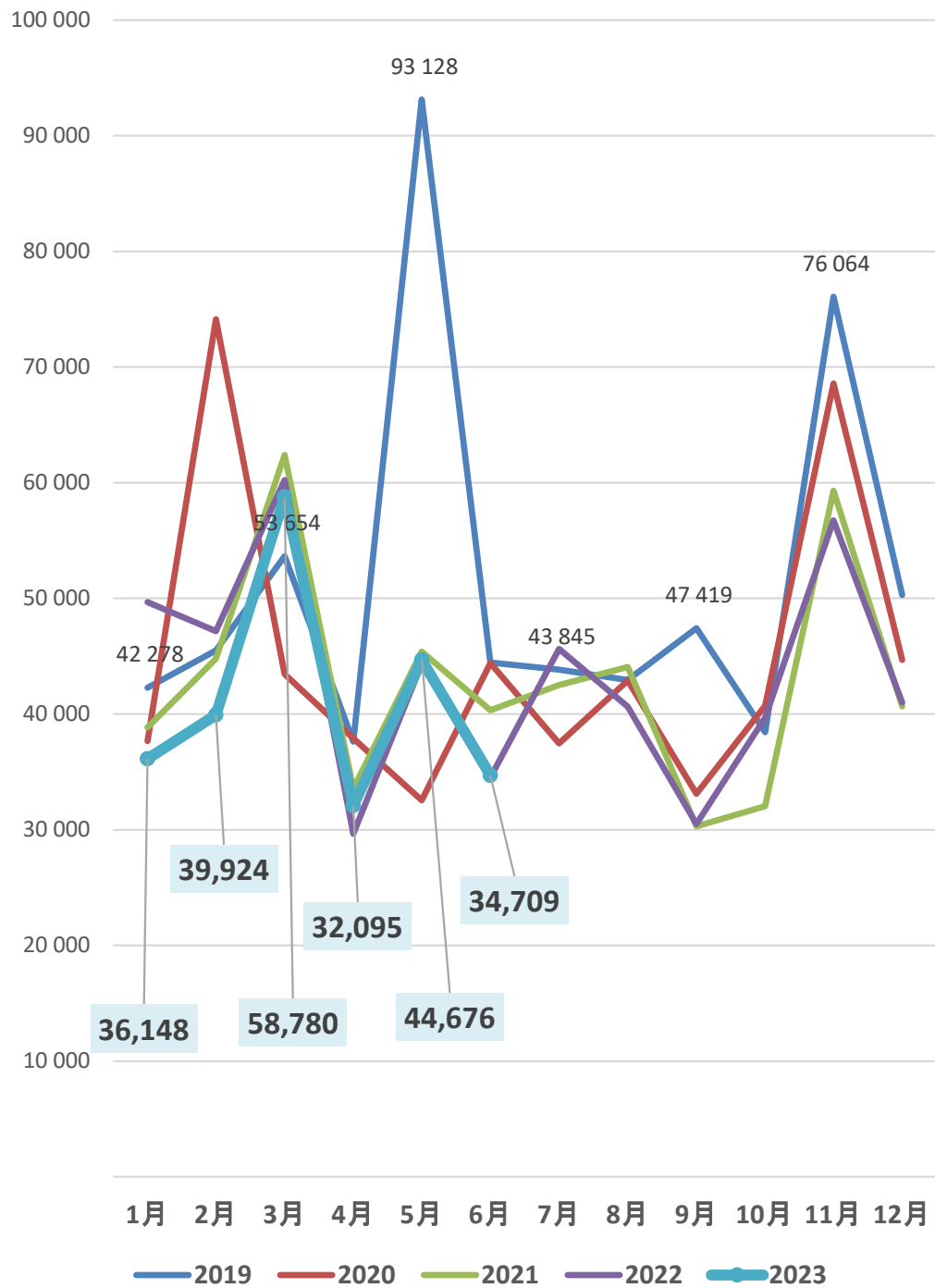
死亡



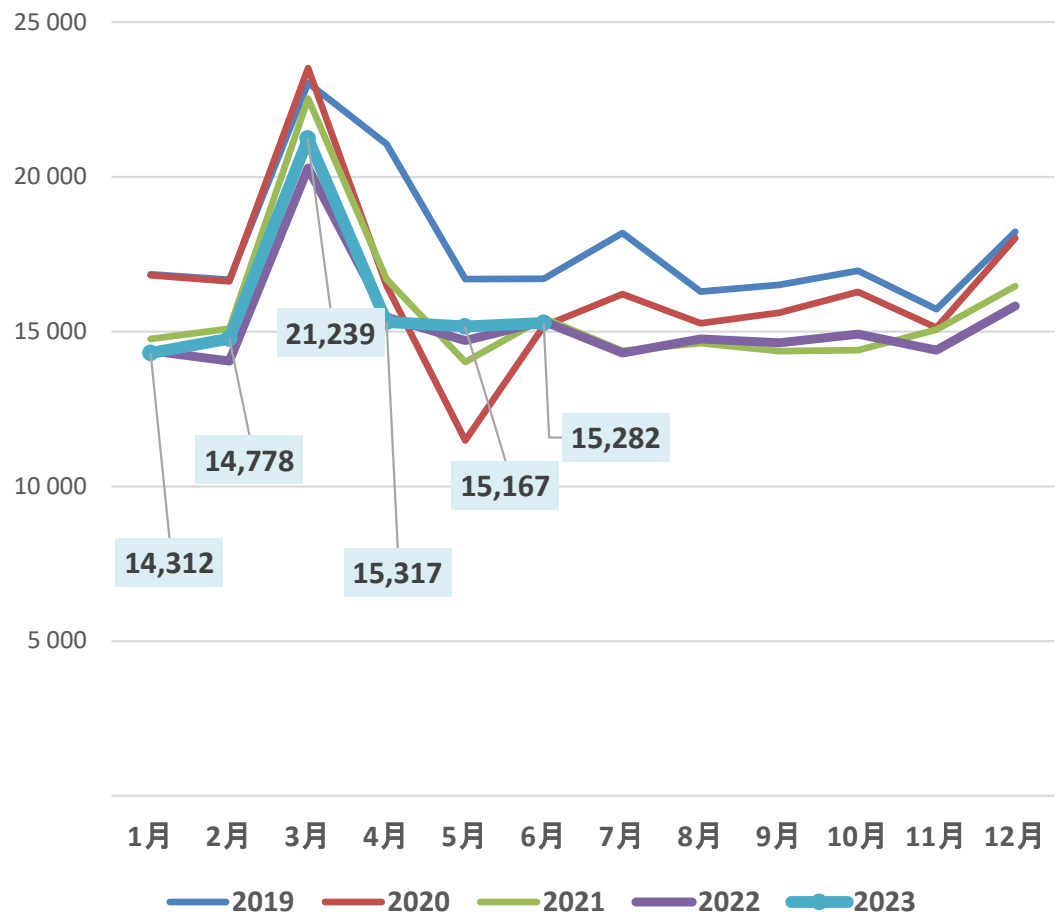
自然増減



婚姻



離婚



2022年の1年間の変化

- 出生数の著しい減少（799,728人、過去最小）
- 死亡数の著しい増加（1,582,033人、過去最大）
- 人口の著しい減少（782,305人、過去最大）

これらの影響は計り知れない

人口動態統計（概数）より

（2019年 2020年 2021年 2022年 2023年4月まで）

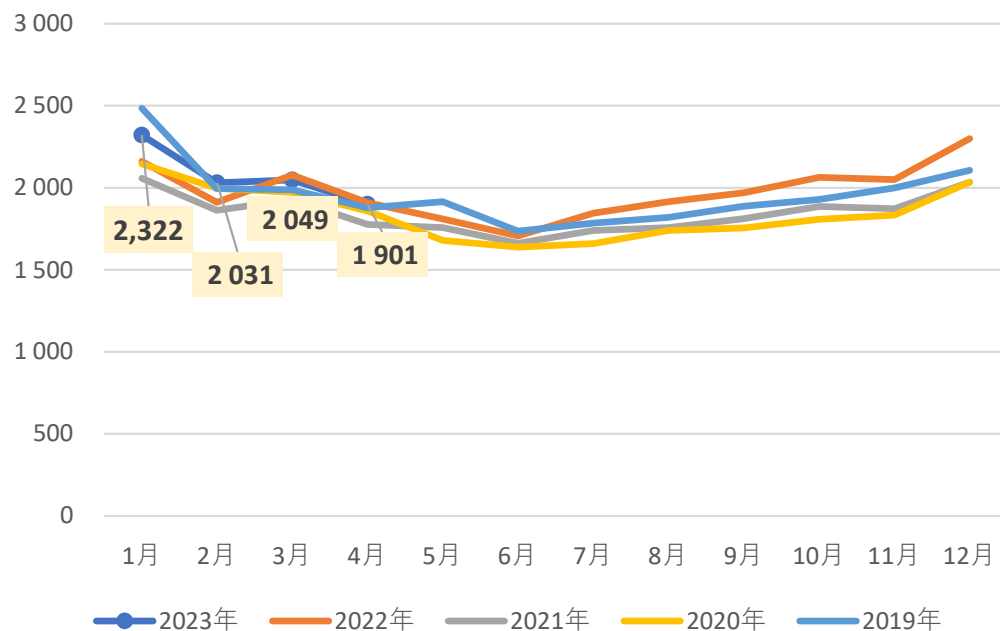
■ 死因別死亡数

■ 超過死亡数とコロナ死亡数

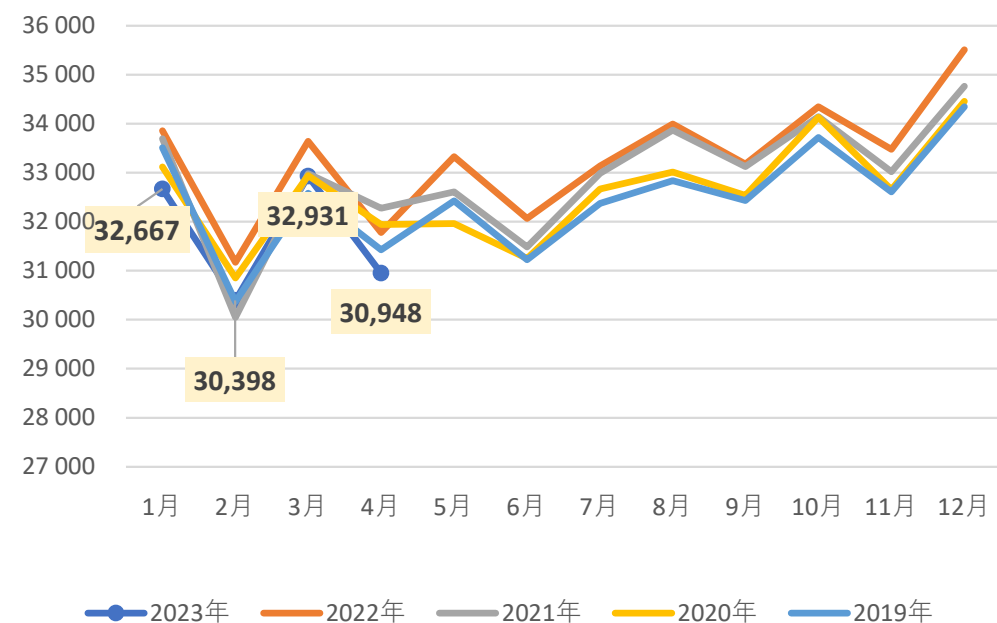
(死因別の月別死亡数の推移)

2019年 2020年 2021年 2022年 2023年

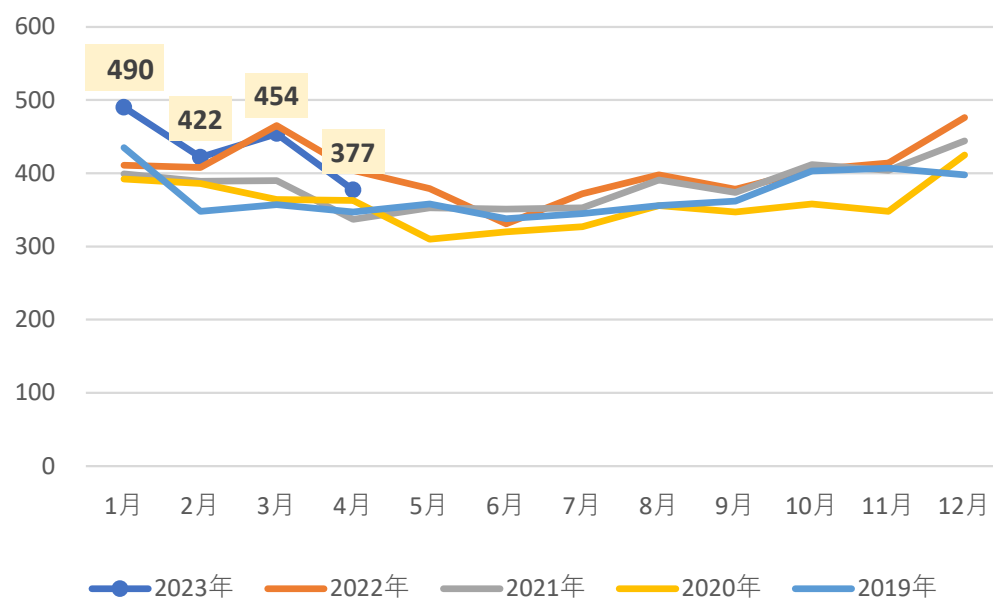
感染症及び寄生虫症



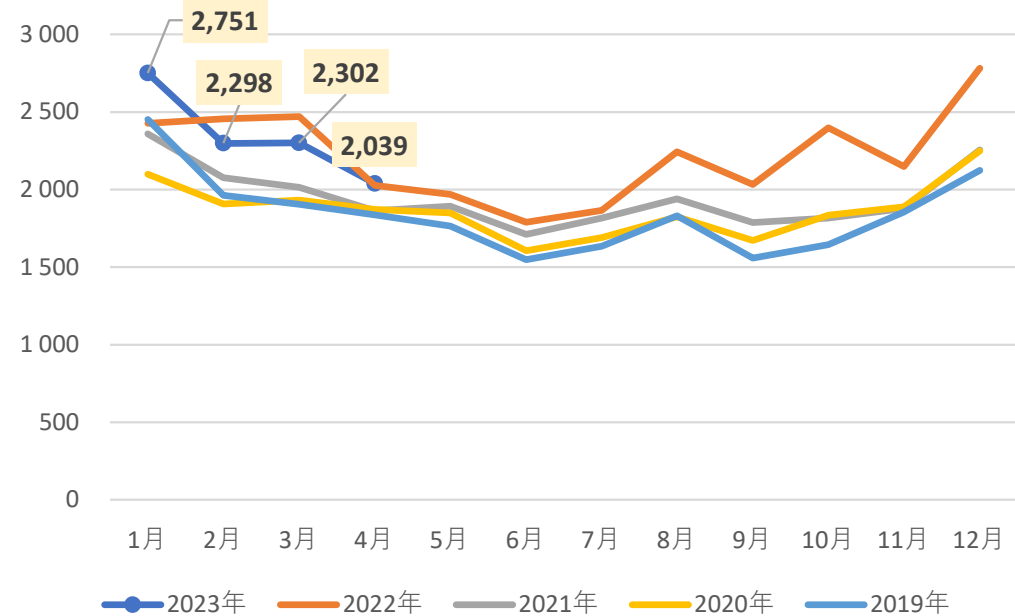
新 生 物＜腫瘍＞



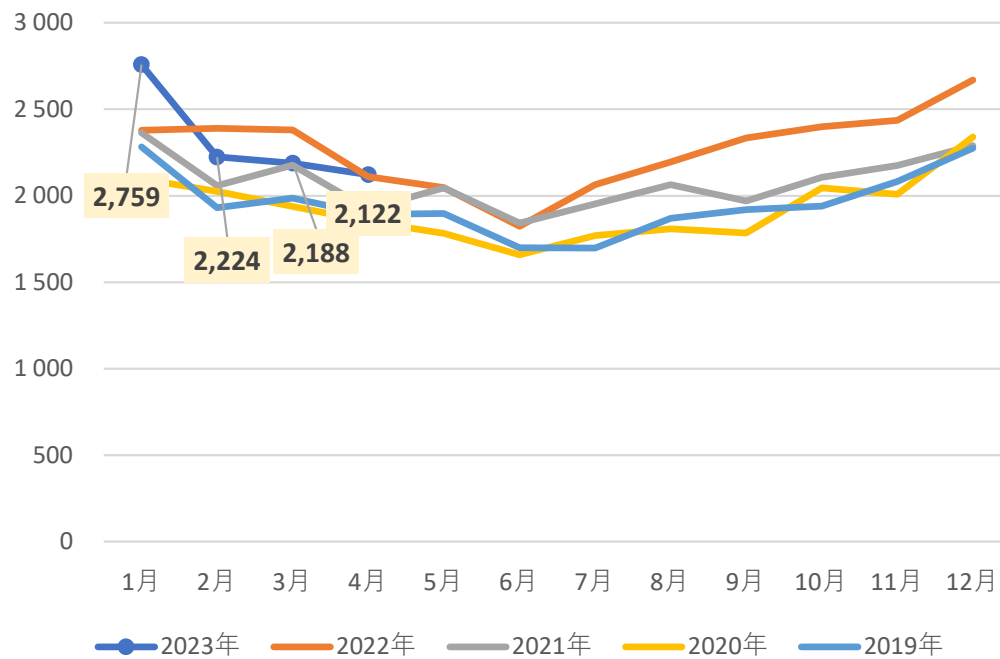
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害



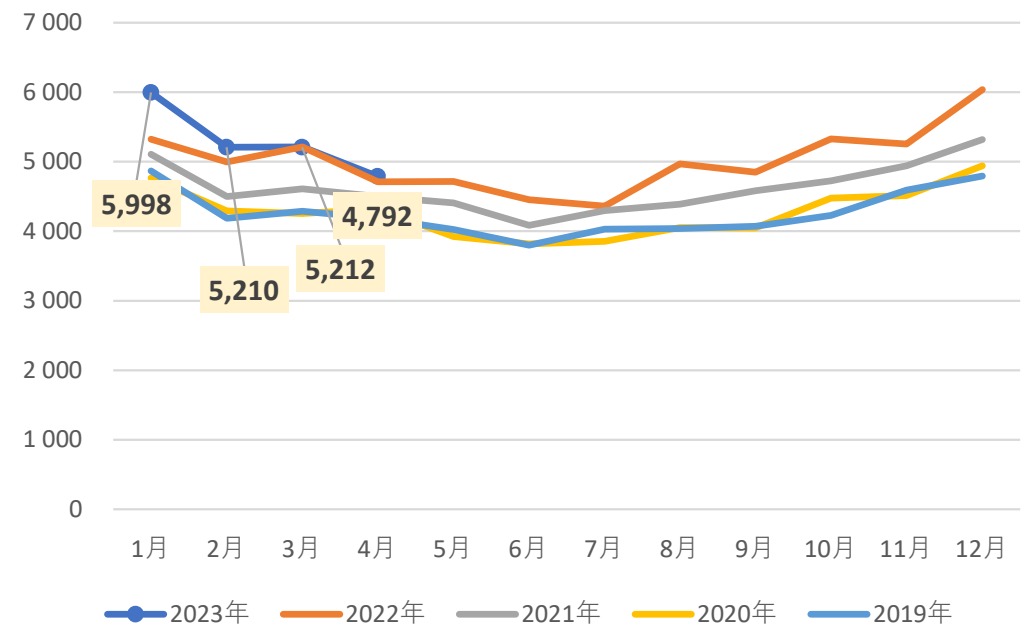
内分泌、栄養及び代謝疾患



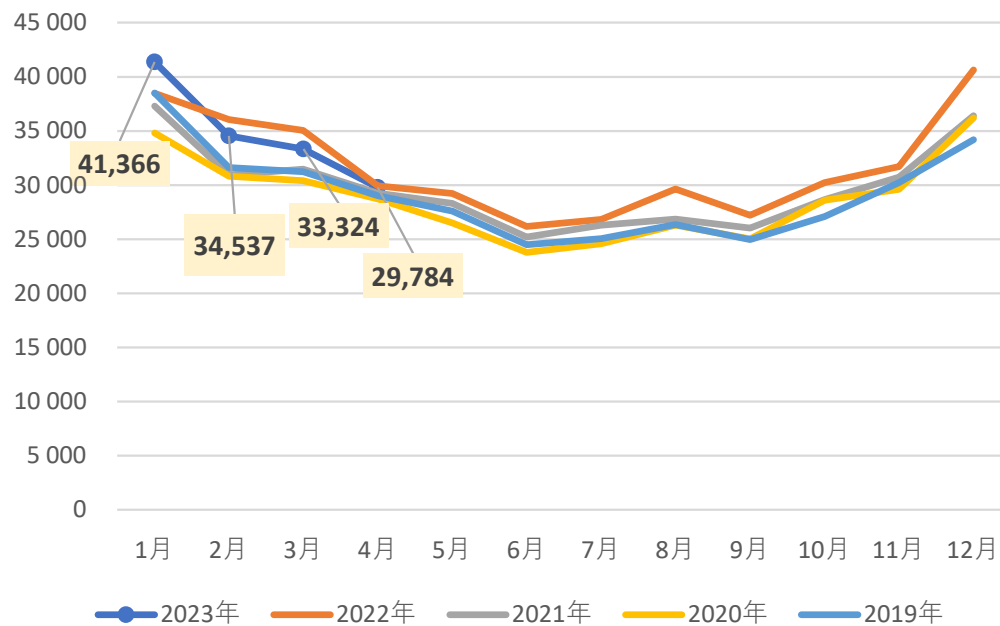
精神および行動の障害



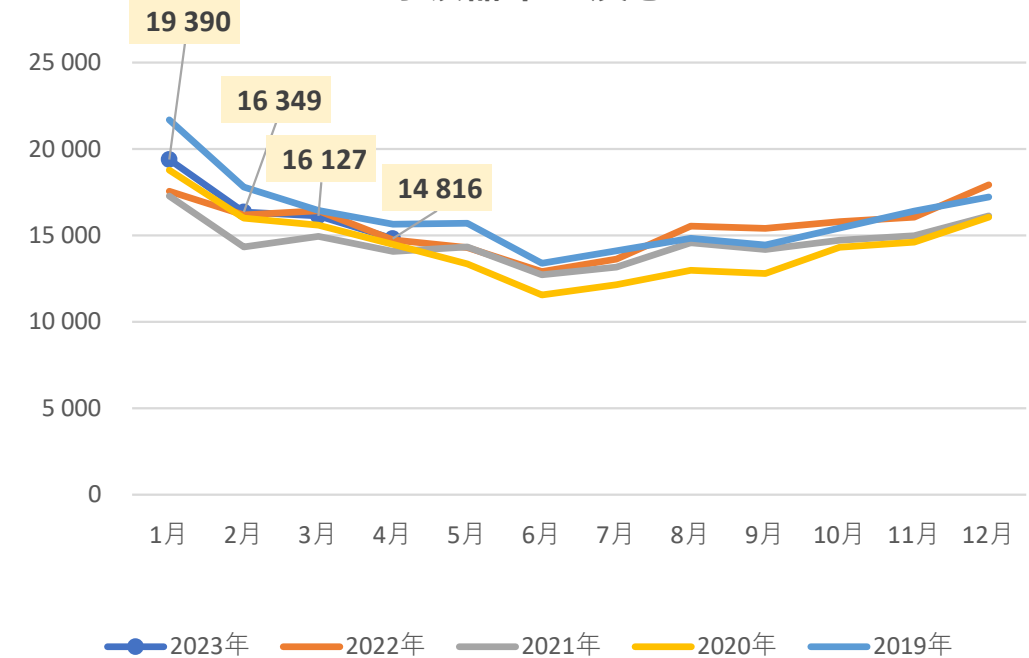
神経系の疾患



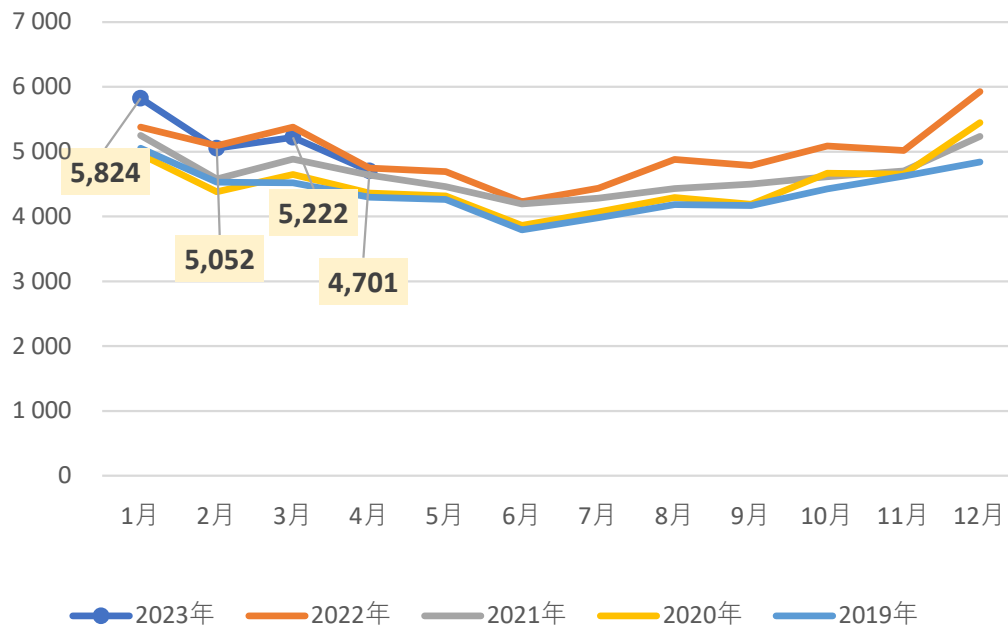
循環器系の疾患



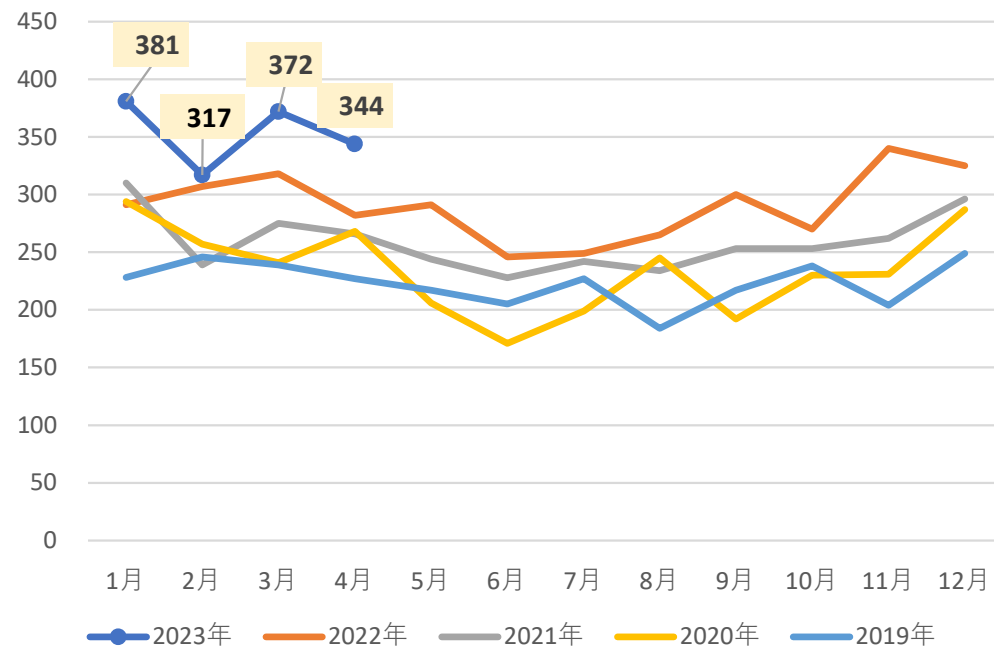
呼吸器系の疾患



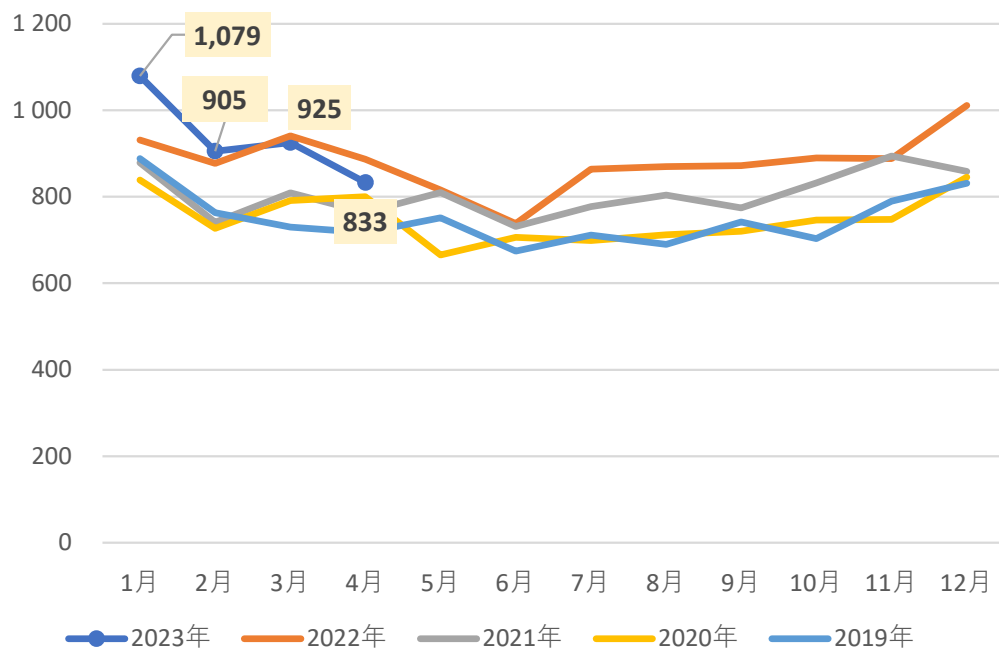
消化器系の疾患



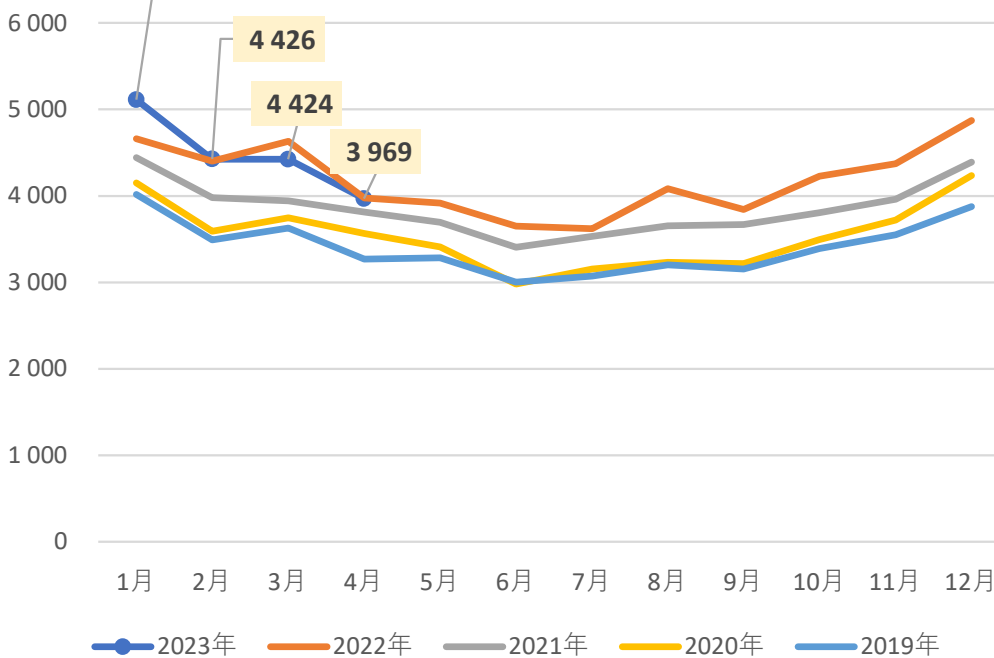
皮膚及び皮下組織の疾患



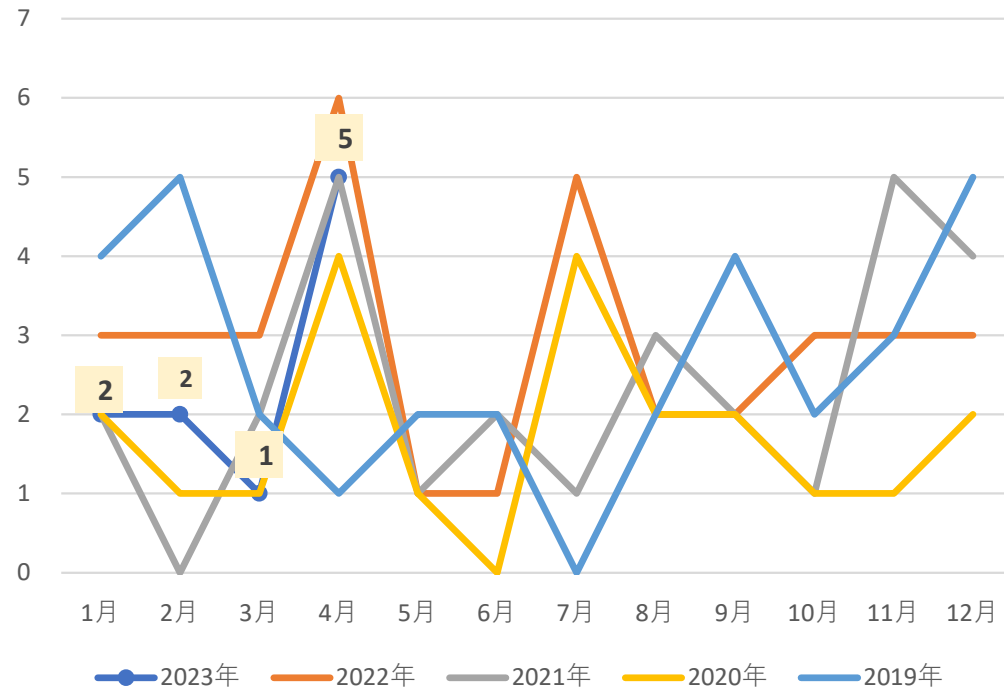
筋骨格系及び結合組織の疾患



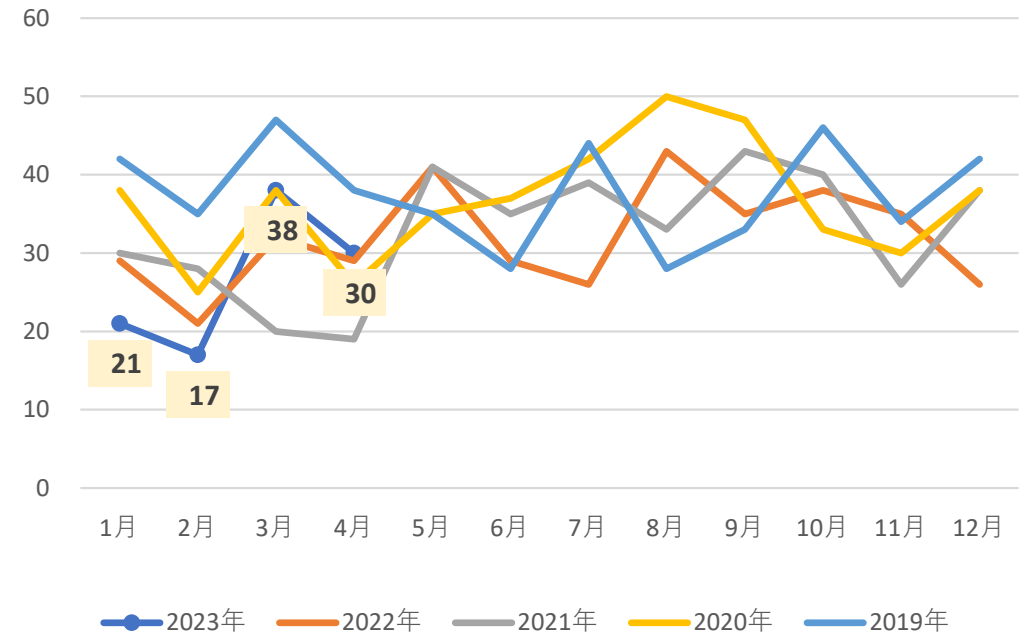
腎尿路生殖器系の疾患



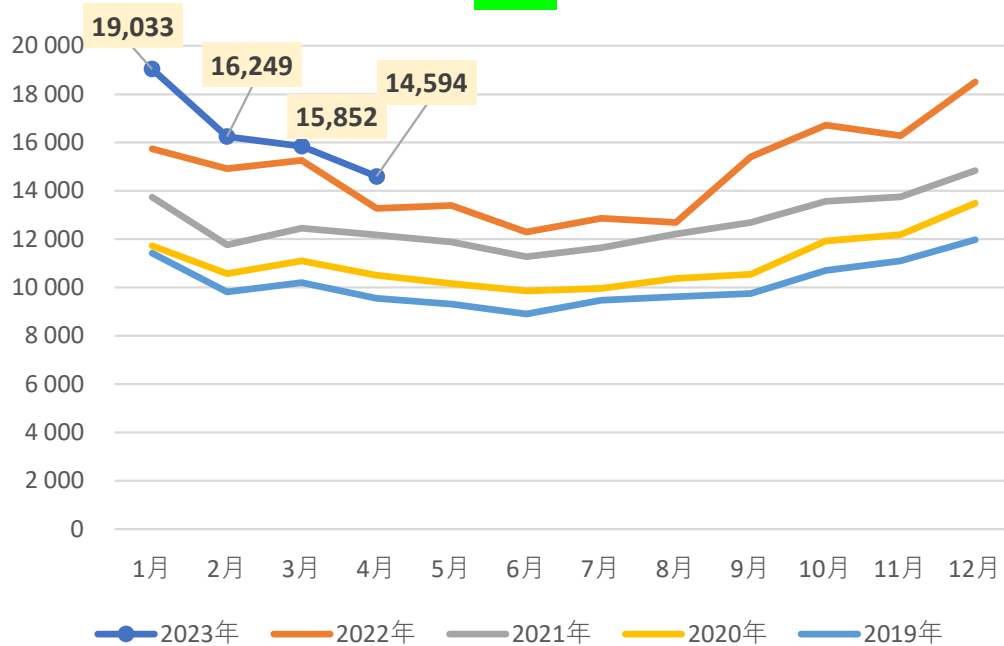
妊娠、分娩及び産じょく



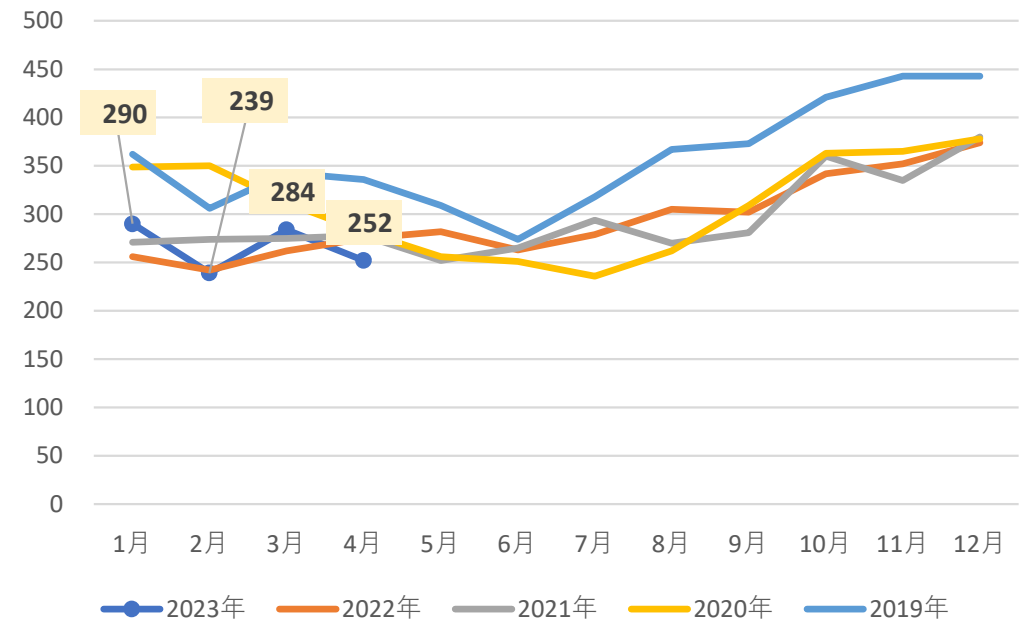
周産期に発生した病態



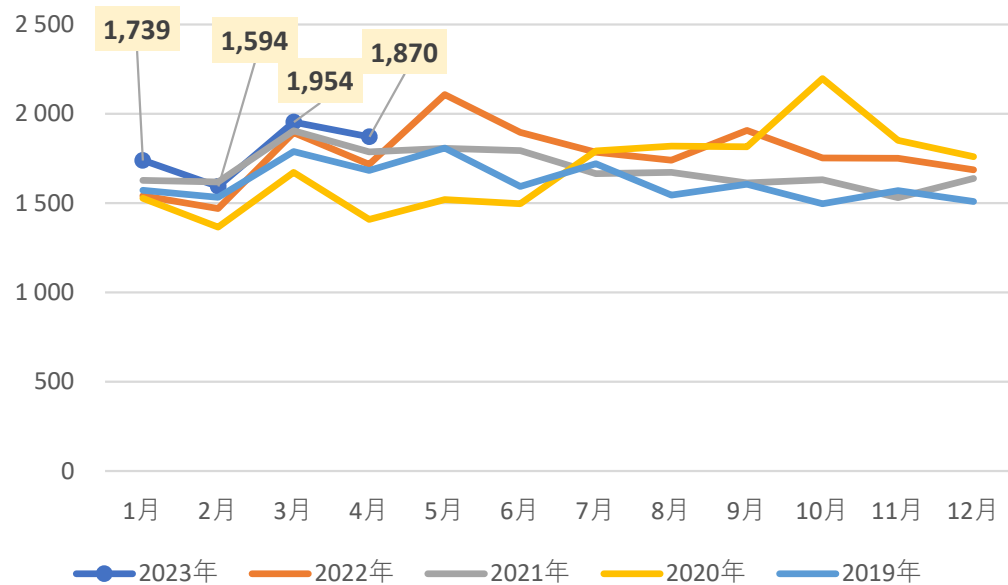
老衰



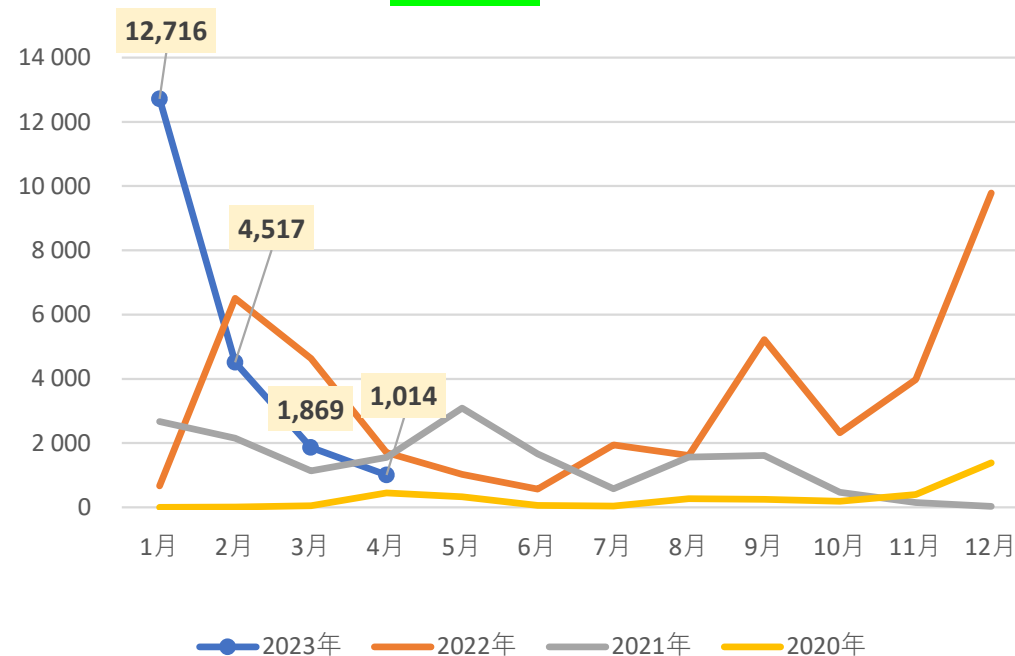
交通事故



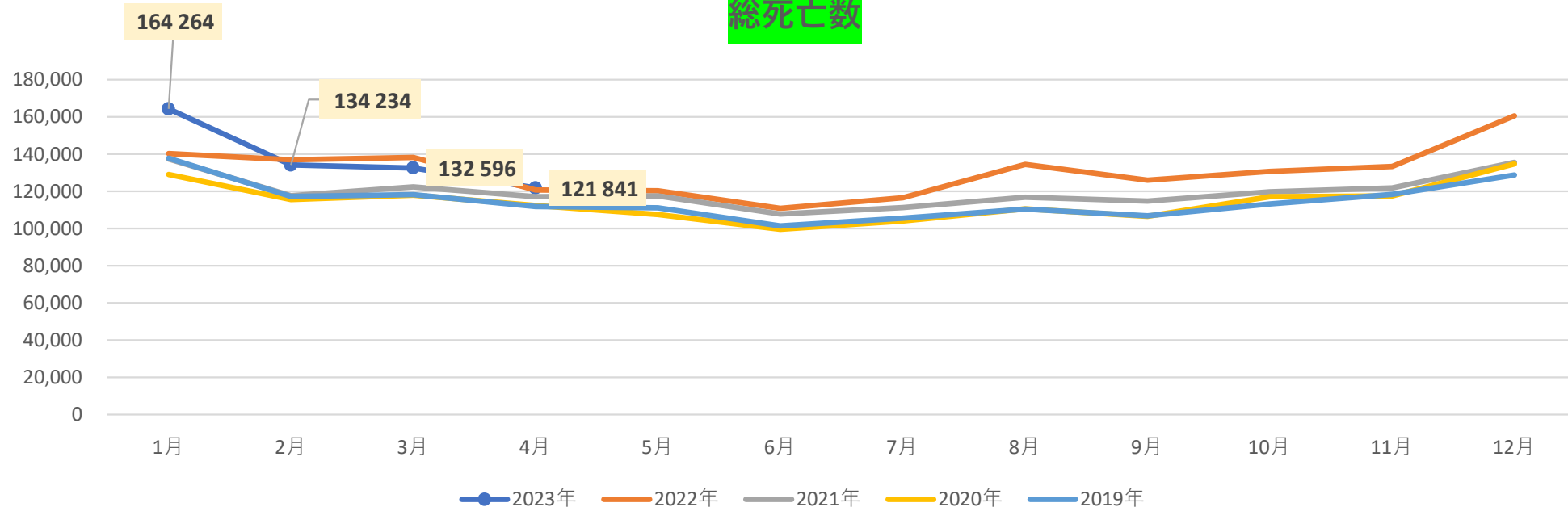
自殺



COVID-19



総死亡数



**コロナ流行下
子どもたちが重大な影響を被っていた**

「コロナ禍が子どもの脳と心に及ぼす影響」

明和政子教授（京都大学教育学科研究科）の指摘が重要

「コロナ禍が子どもの脳と心に及ぼす影響」 （時事通信2022/1/31）

<https://www.jiji.com/jc/v4?id=2110myowa0001>

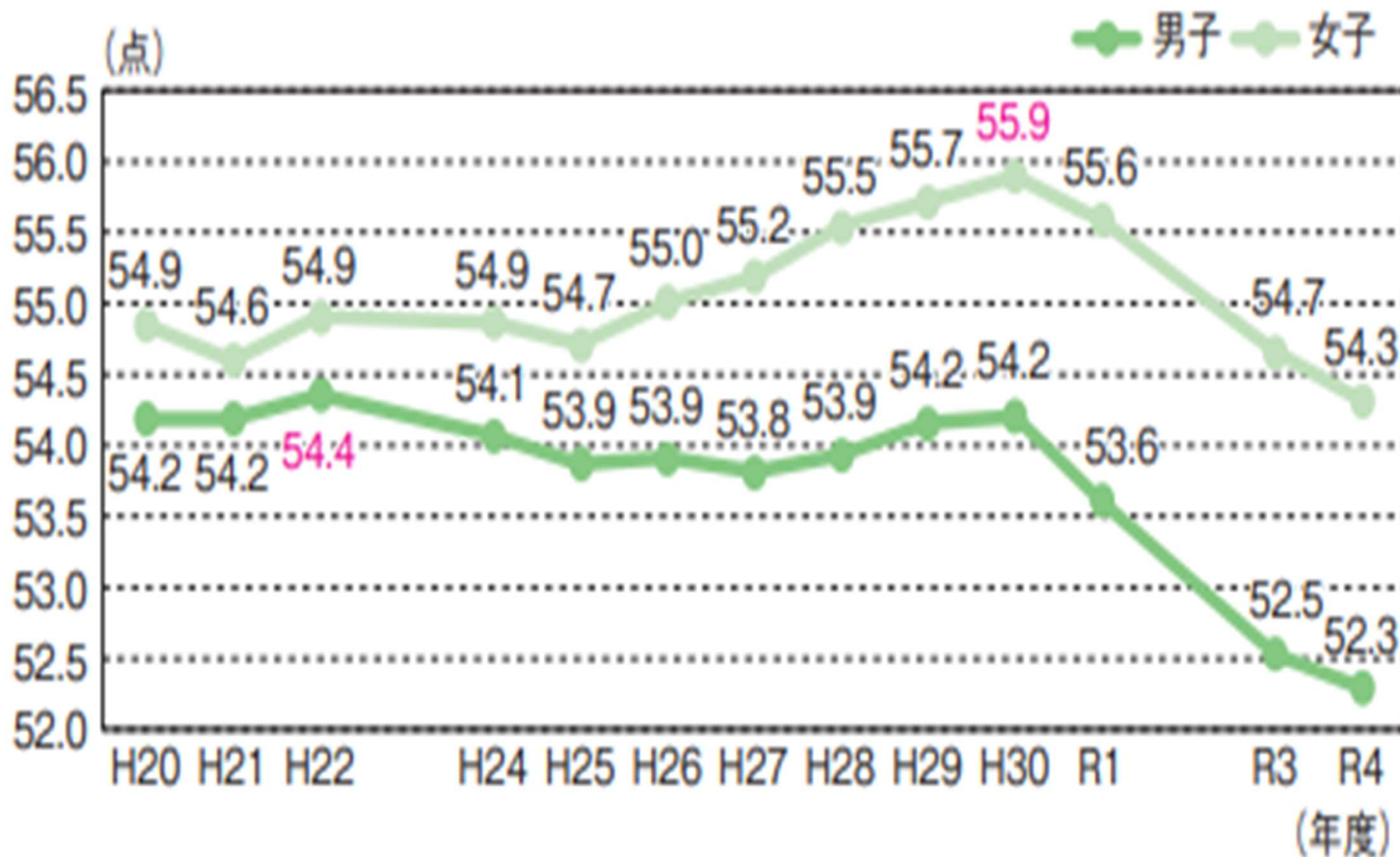
「コロナ禍におけるマスク着用と子どもの育ち」

<https://www.harenohi-hoikuen.com/2021/07/2012/>

など

体力合計点の経年変化（小学生）

「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果 報告書」 スポーツ庁

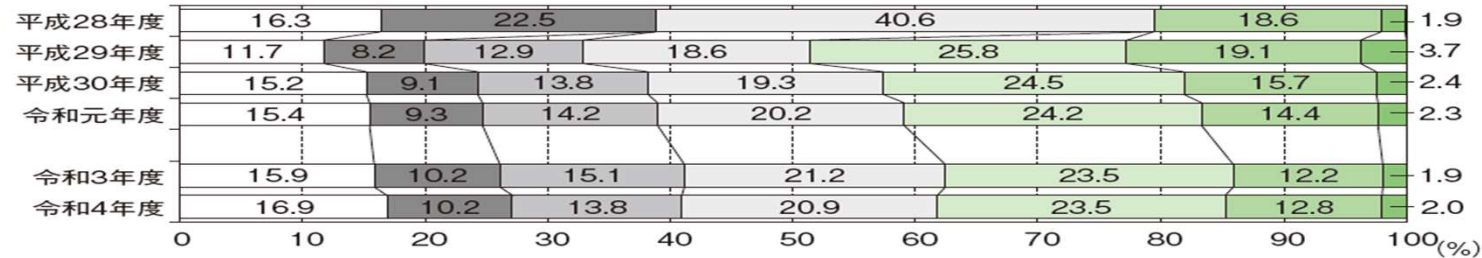


学習以外でTVやゲームの画面を見る時間の経年変化

「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果 報告書」 スポーツ庁

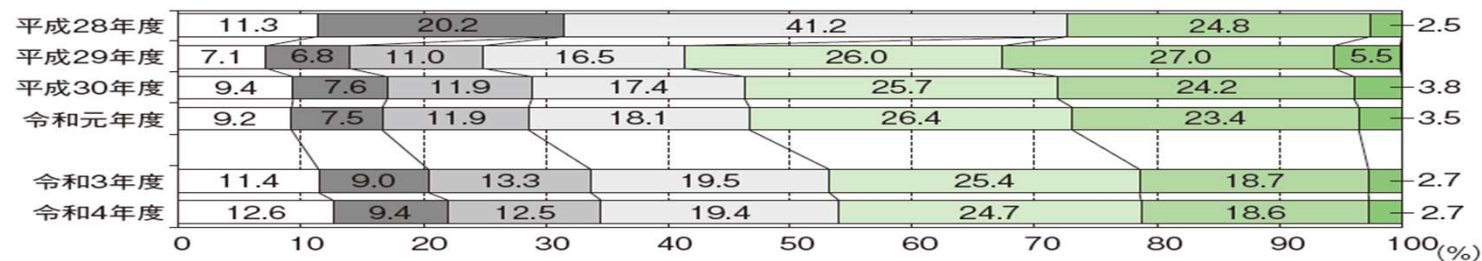
小学校

男子



- 5時間以上*1
- 4時間以上5時間未満*2
- 3時間以上4時間未満
- 2時間以上3時間未満*3
- 1時間以上2時間未満
- 1時間未満*4
- 全く見ない*5

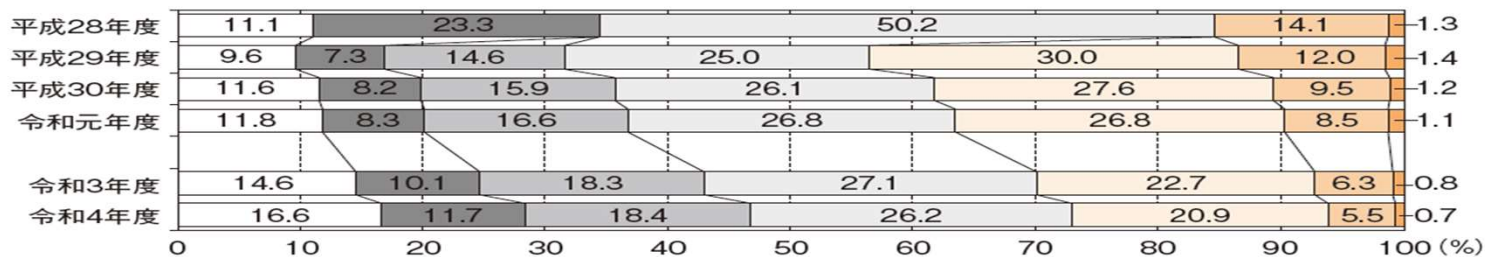
女子



- 平成28年度は
- *1 5時間以上
 - *2 3時間以上5時間未満
 - *3 1時間以上3時間未満
 - *4 1時間未満
 - *5 全く見たたり聞いたりしない

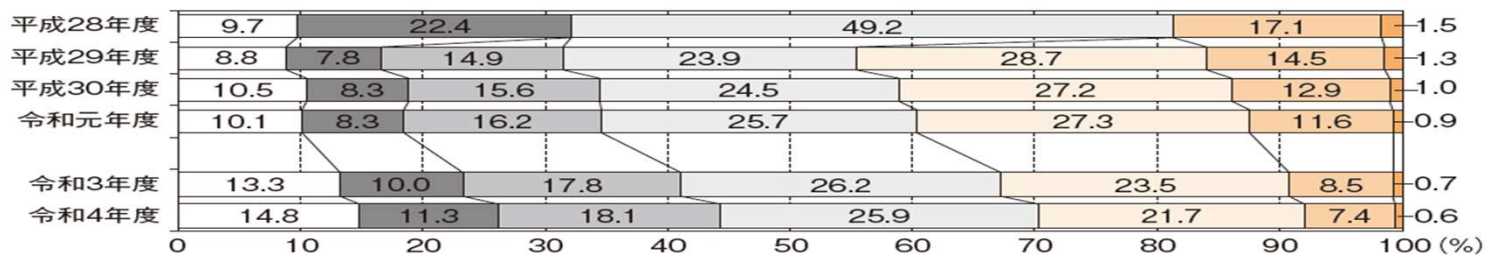
中学校

男子



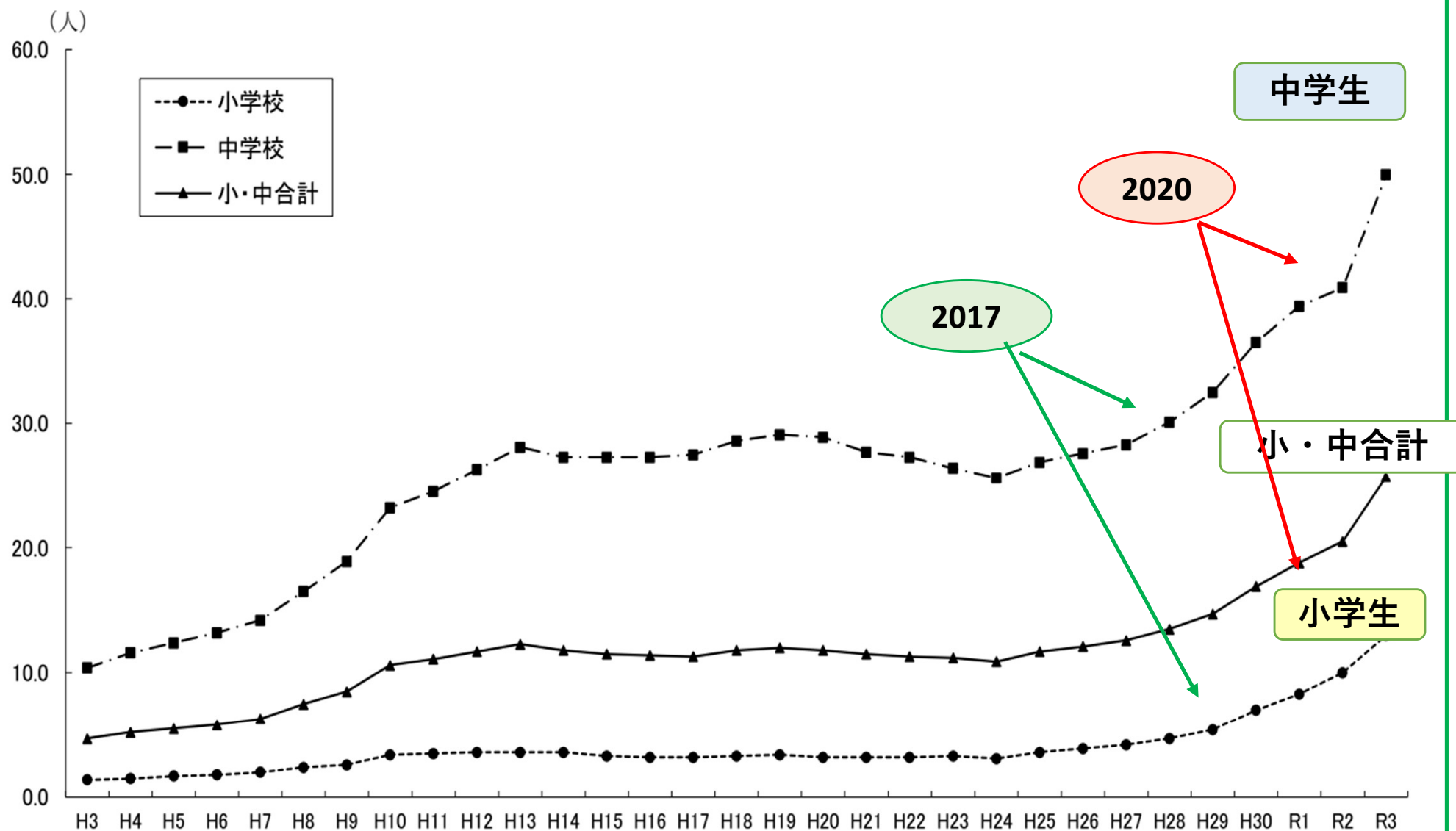
- 5時間以上*1
- 4時間以上5時間未満*2
- 3時間以上4時間未満
- 2時間以上3時間未満*3
- 1時間以上2時間未満
- 1時間未満*4
- 全く見ない*5

女子



- 平成28年度は
- *1 5時間以上
 - *2 3時間以上5時間未満
 - *3 1時間以上3時間未満
 - *4 1時間未満
 - *5 全く見たたり聞いたりしない

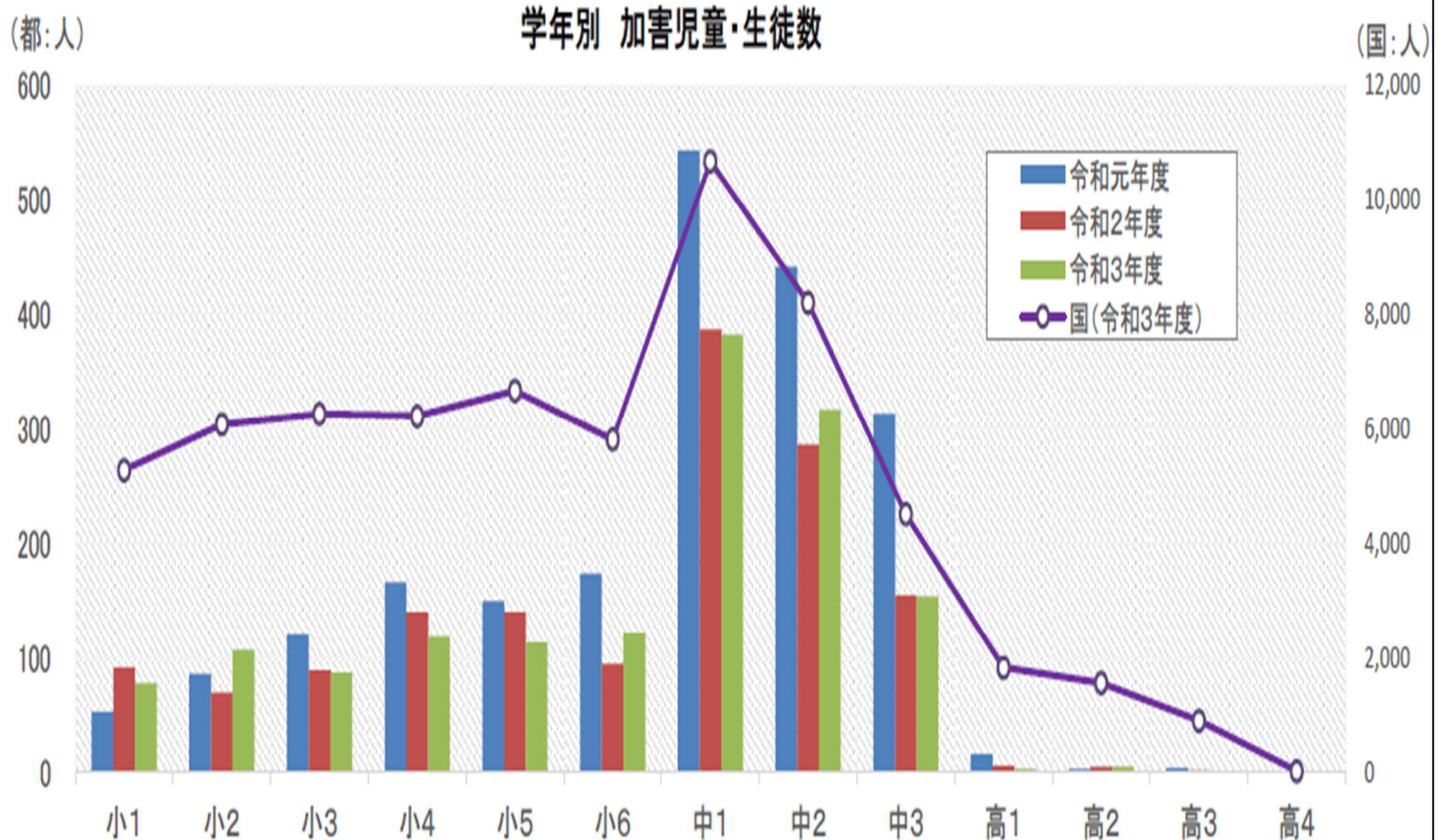
1,000人あたりの不登校児童生徒数の推移



(注)調査対象:国公立小・中学校(小学校には義務教育学校前期課程, 中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程, 高等学校には中等教育学校後期課程を含む。)

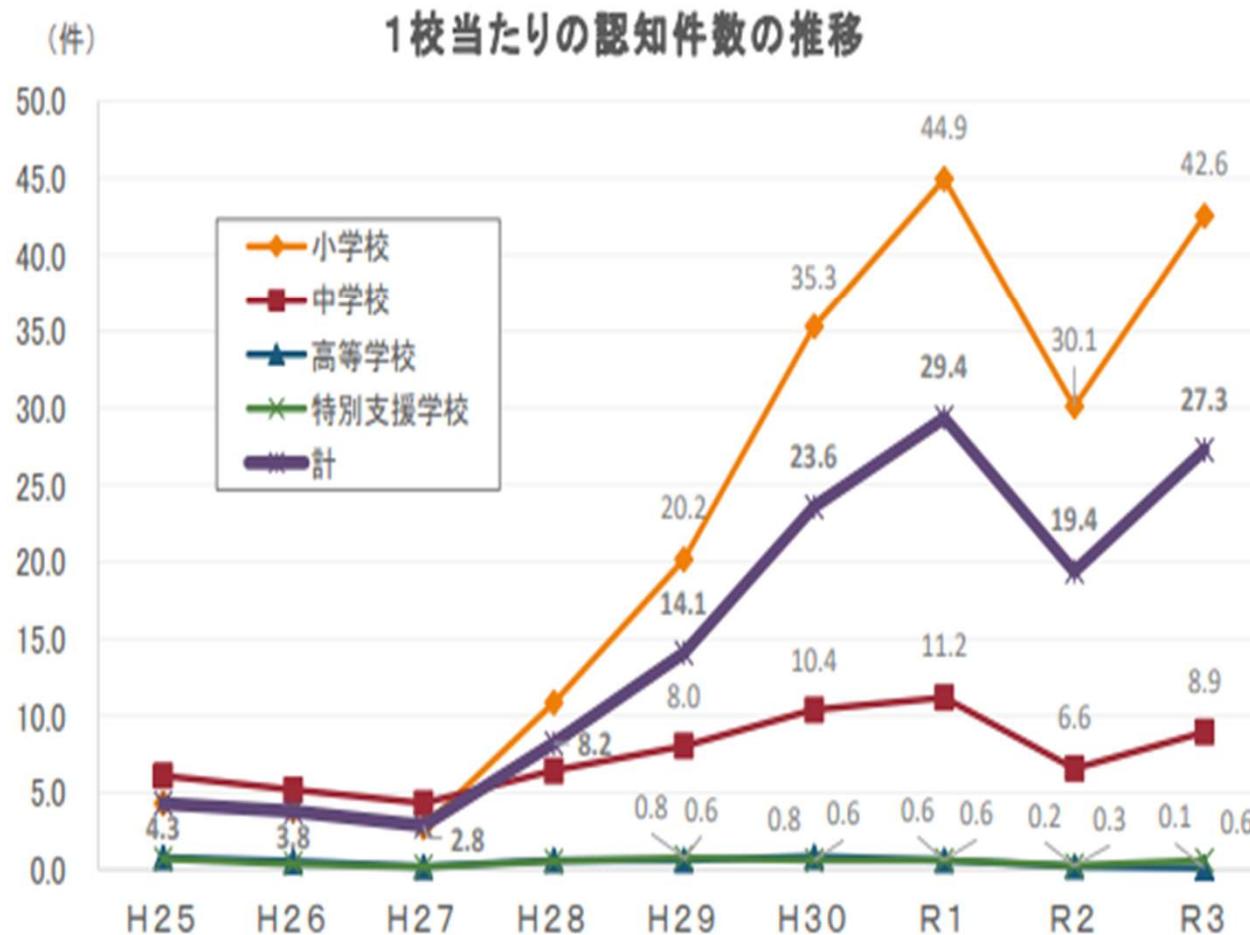
子どもの暴力行為の状況

学年別加害児童生徒数

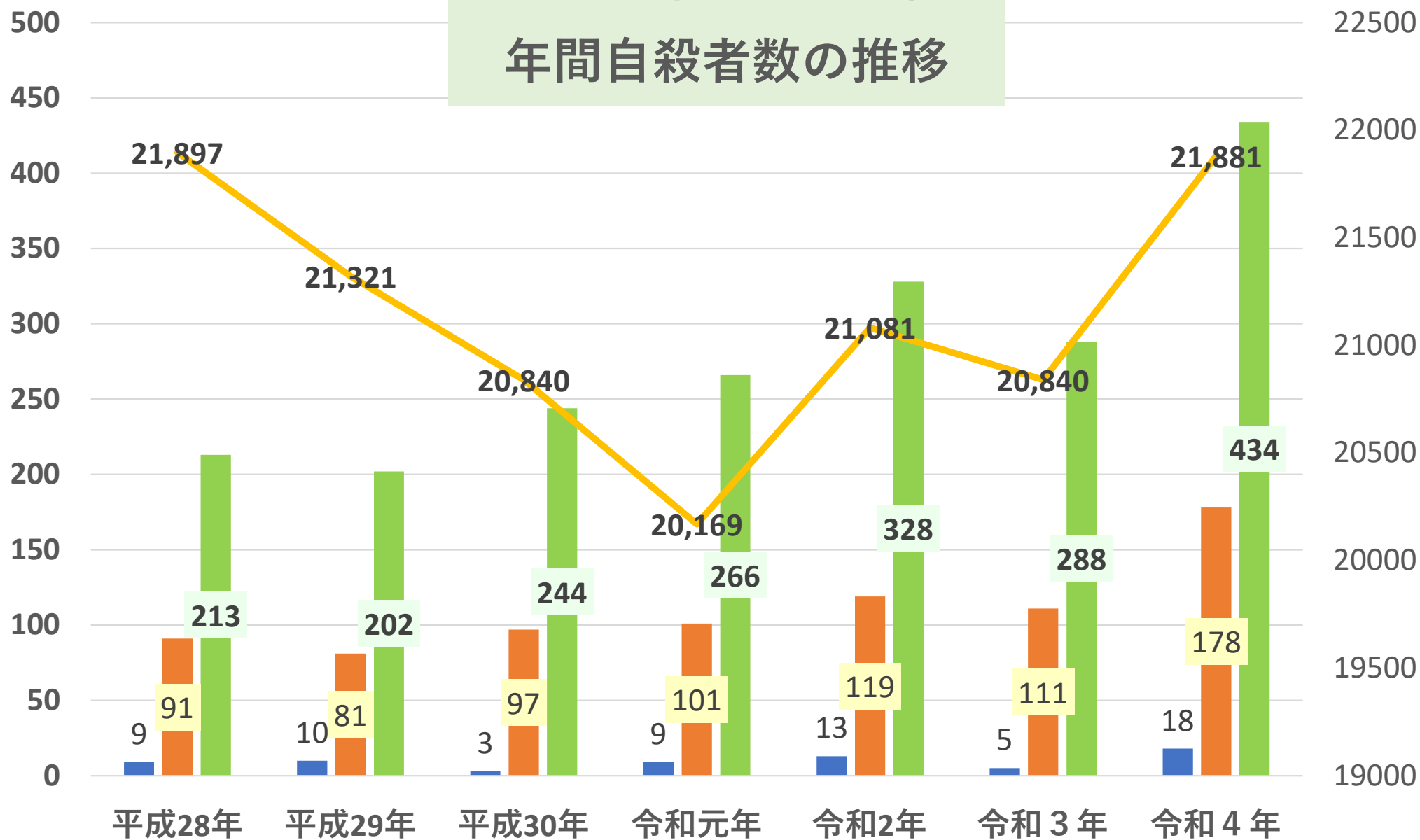


令和3年 コロナ流行下、いじめ認知率は急減

- 令和3年度における1校当たりの認知件数は、27.3件である。
- 小・中学校では、平成27年度から令和元年度まで増加傾向にあり、平成27、令和元年度を比べると、小学校は16倍、中学校は2.6倍となっていたが、令和2年度は減少した。令和3年度と令和元年度を比較すると、減少している。高等学校、特別支援学校は0.2～0.8件を推移している。



小学生 中学生 高校生 年間自殺者数の推移



■小学生

■中学生

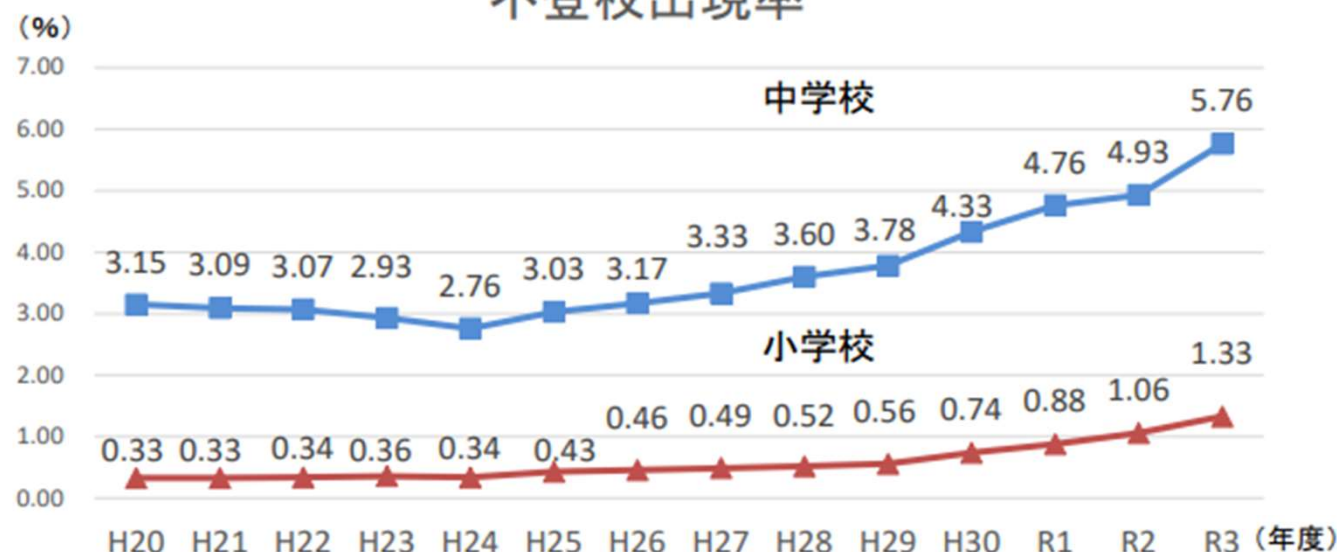
■高校生

—全年齢

3 小・中学校における 長期欠席の状況

(2) 不登校出現率・学校復帰率

不登校出現率

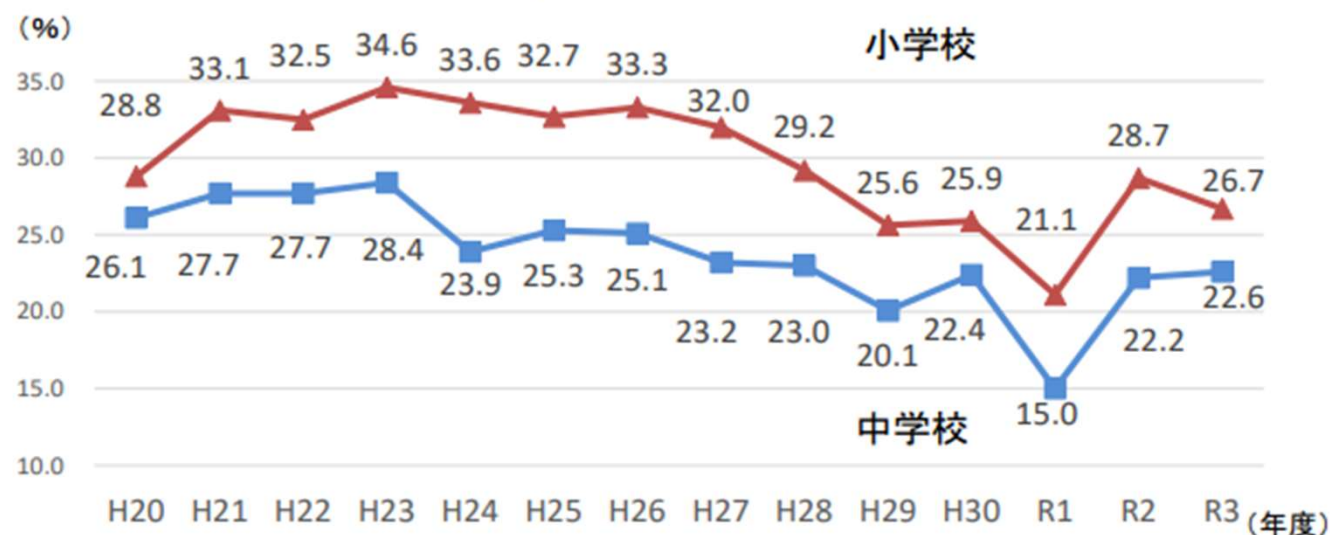


不登校出現率は、小学校1.33%
中学校5.76%であり、その割合
は小・中学校ともに9年連続で
増加している。

「不登校出現率」

在籍児童・生徒数（学校基本
調査による。）に占める
不登校児童・生徒数の割合

学校復帰率



学校復帰率は、小学校26.7%、
中学校22.6%であり、その割合
は令和2年度と比較して、
小学校では減少、中学校では
増加している。

「学校復帰率」

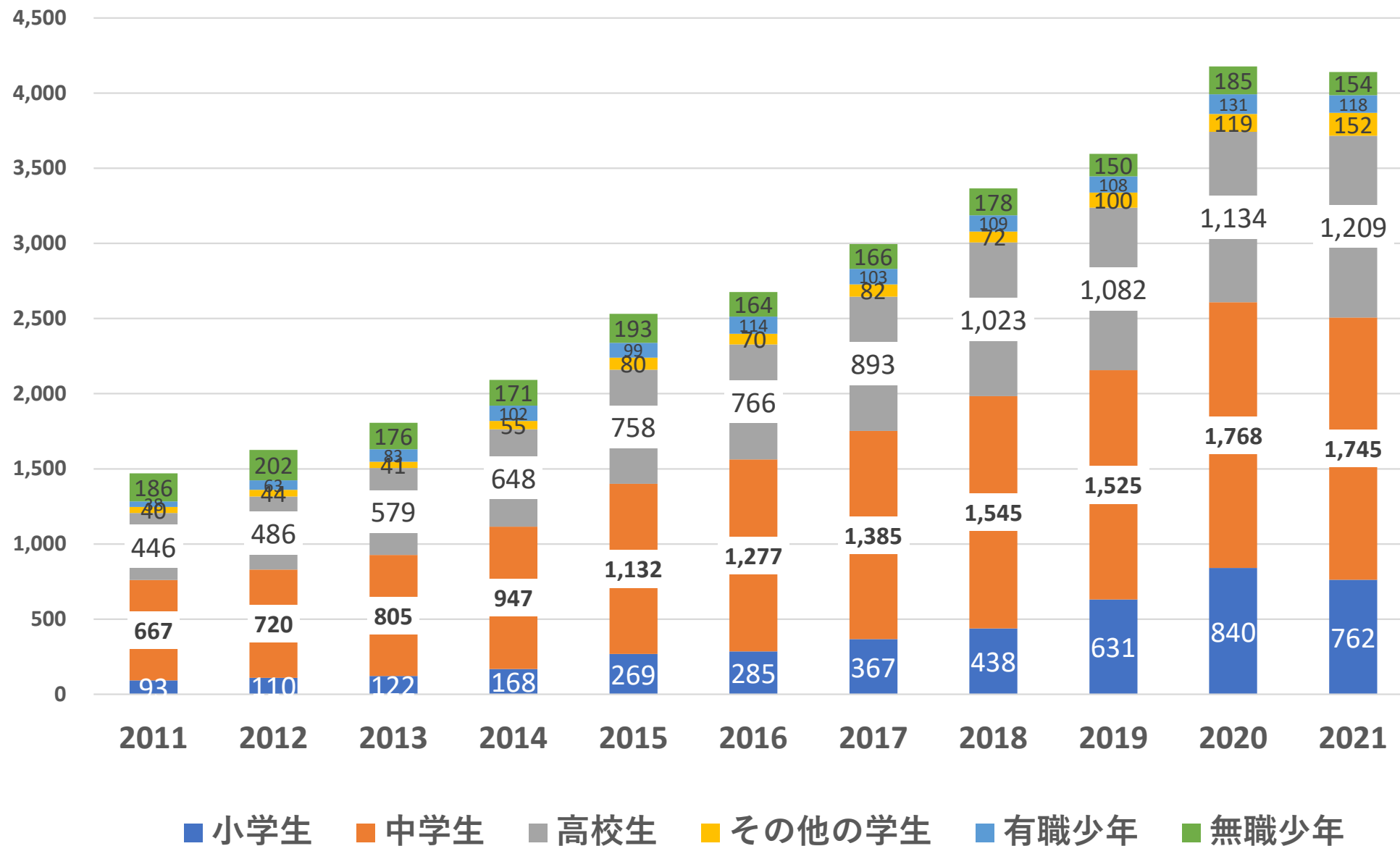
不登校児童・生徒のうち、
「指導の結果登校する又は
登校できるようになった
児童・生徒」の割合

家庭の中で起きていたこと

子どもの家庭内暴力

家庭内暴力事案の学職別推移

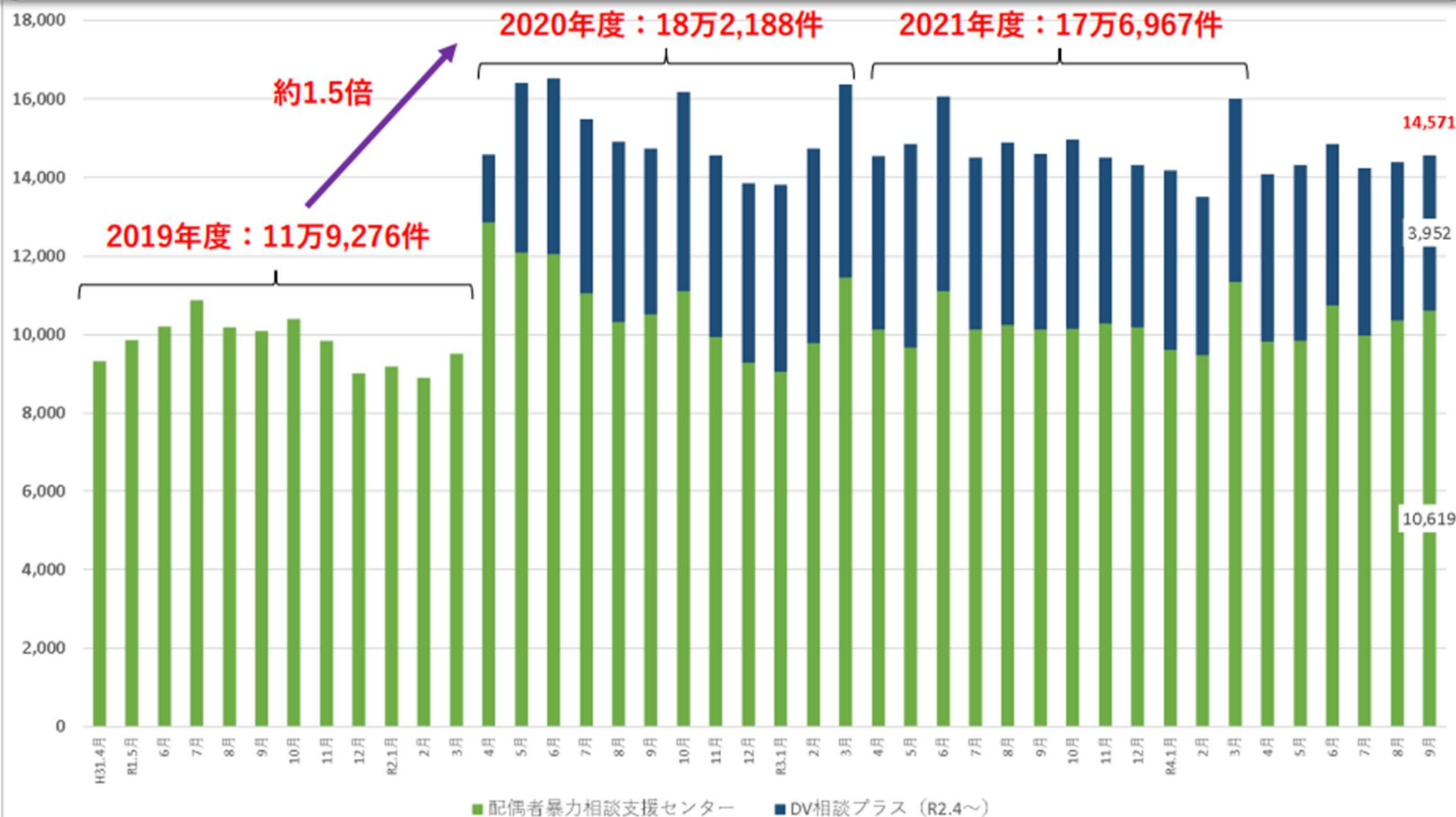
警察庁；令和2年における少年の補導及び保護の概況より



DV相談件数の推移

- ✓ DV相談件数の推移を見ると、2020年度の相談件数は、18万2,188件であり、2019年度の約1.5倍。
- ✓ 2021年度の相談件数は、17万6,967件であり、2020年度と比較すると減少しているものの、毎月1万4,000～1万6,000件程度の相談が寄せられており、引き続き高水準で推移。
- ✓ 2022年9月の相談件数は、1万4,571件（前年同月比▲0.3%）となっている。

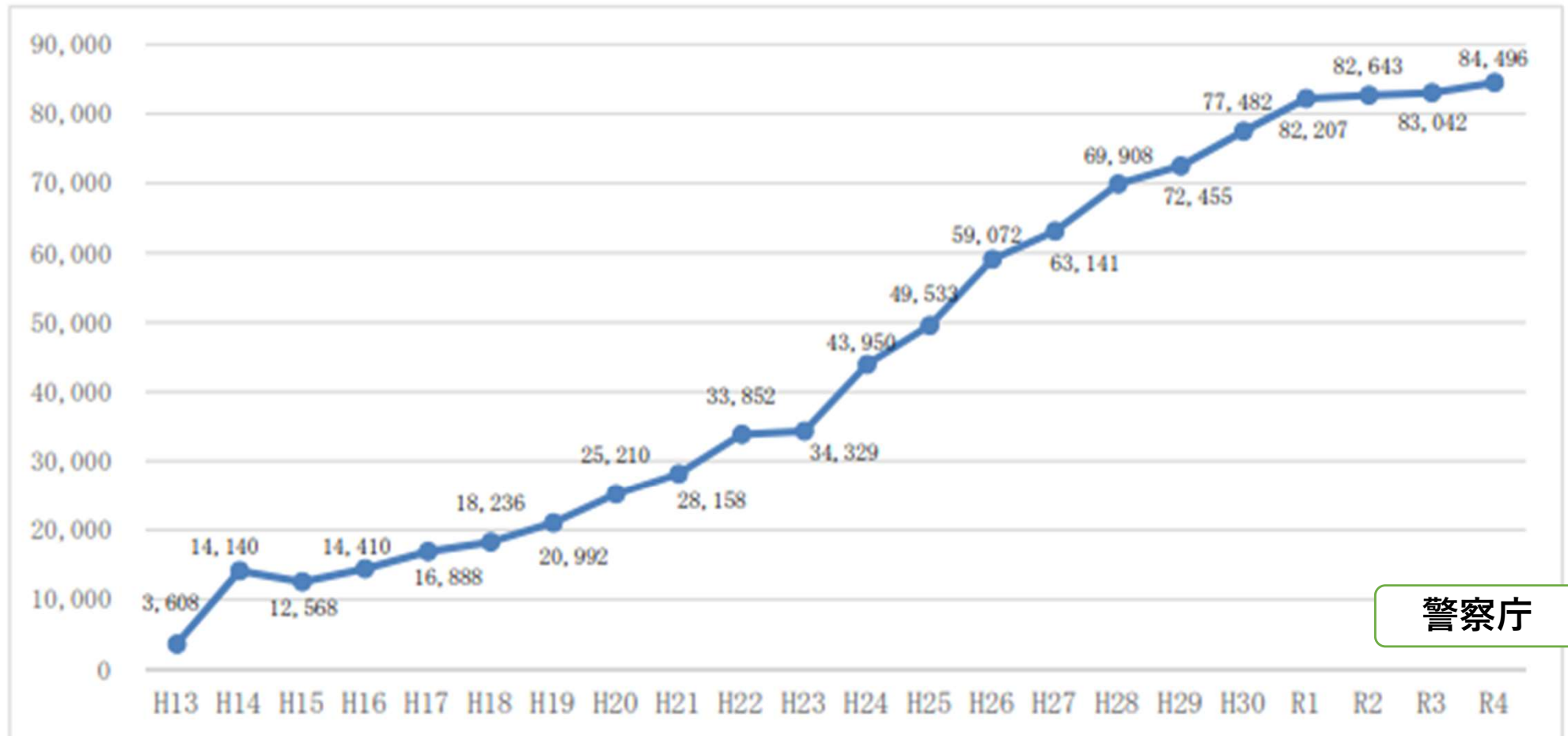
内閣府 男女共同参画局



※本グラフは、全国の配偶者暴力相談支援センターに寄せられた相談件数とDV相談プラスに寄せられた相談件数を集計したものである。

※配偶者暴力相談支援センターの相談件数については、内閣府において、各都道府県から報告を受けた相談件数を、2022年12月2日時点でとりまとめ、集計したものである。

配偶者からの暴力事案等の相談等状況



注1) 配偶者からの身体に対する暴力又は生命等に対する脅迫を受けた被害者の相談等を受理した件数

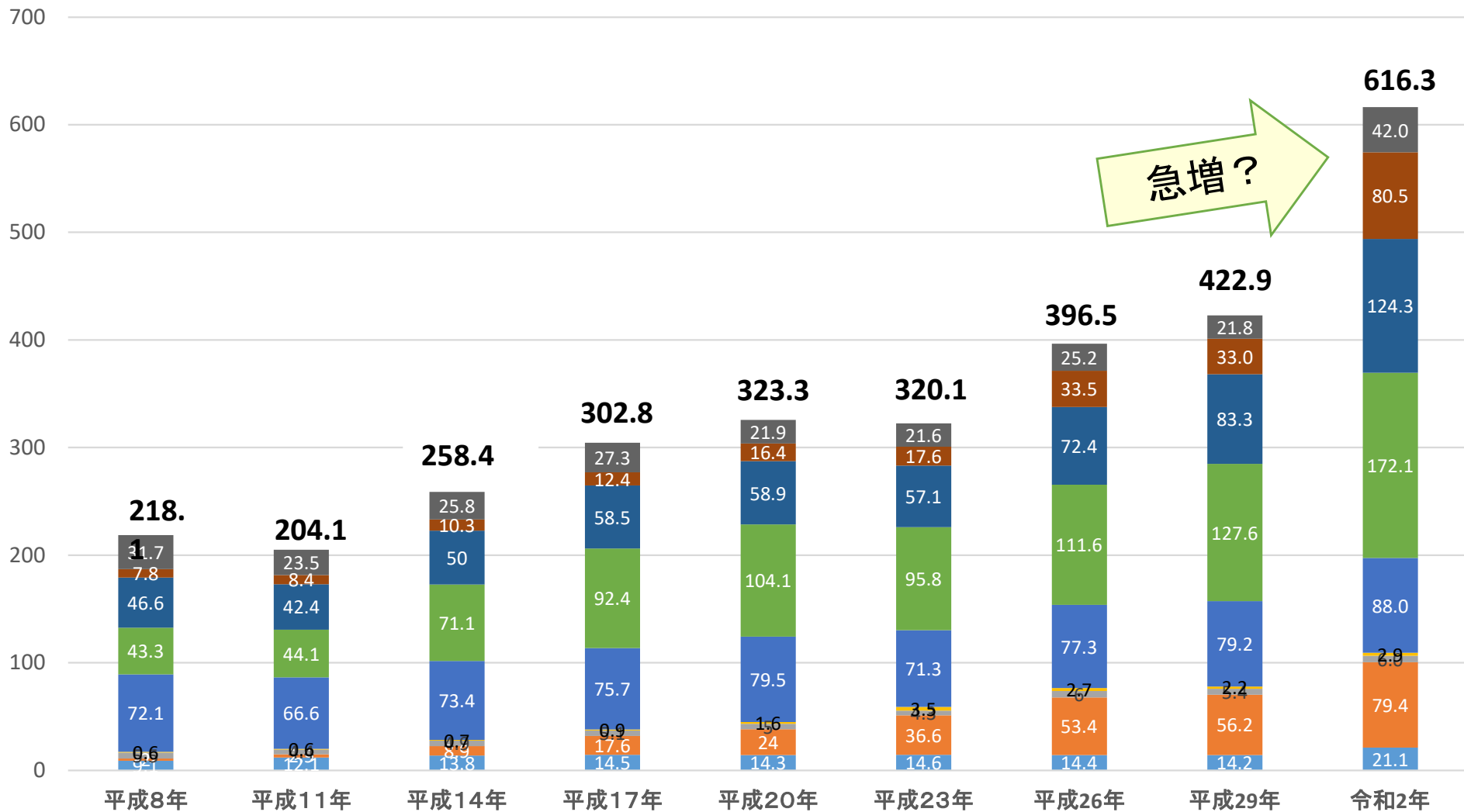
注2) 平成13年は、DV防止法の施行日(10月13日)以降の件数

注3) 法改正を受け、平成16年12月2日施行以降、離婚後に引き続き暴力を受けた事案について、20年1月11日施行以降、生命等に対する脅迫を受けた事案について、また、26年1月3日施行以降、生活の本拠を共にする交際(婚姻関係における共同生活に類する共同生活を営んでいないものを除く。)をする関係にある相手方からの暴力事案についても計上

精神科医療で起きていたこと

精神障害者の数 年次推移

厚労省「患者調査」より

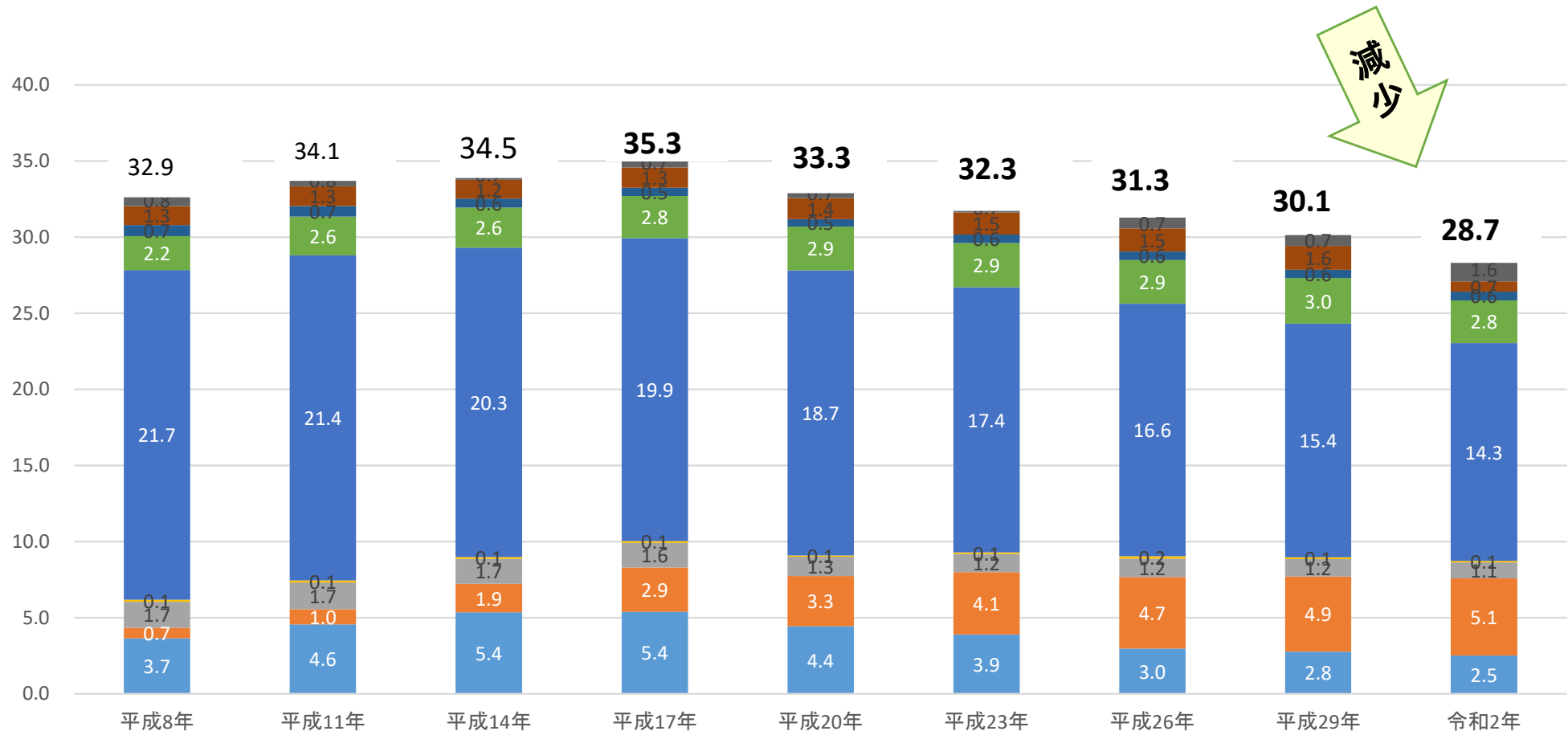


- 血管性及び詳細不明の認知症
- アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害
- 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害
- 神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害
- てんかん
- アルツハイマー病
- その他の精神作用物質使用による精神及び行動の障害
- 気分[感情]障害(躁うつ病を含む)
- その他の精神及び行動の障害

精神障害による推計入院数

年次推移

厚労省「患者調査」より 各年10月



- 血管性及び詳細不明の認知症
- アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害
- 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害
- 神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害
- てんかん

- アルツハイマー病
- その他の精神作用物質使用による精神及び行動の障害
- 気分[感情]障害(躁うつ病を含む)
- その他の精神及び行動の障害